

平成 28 年度

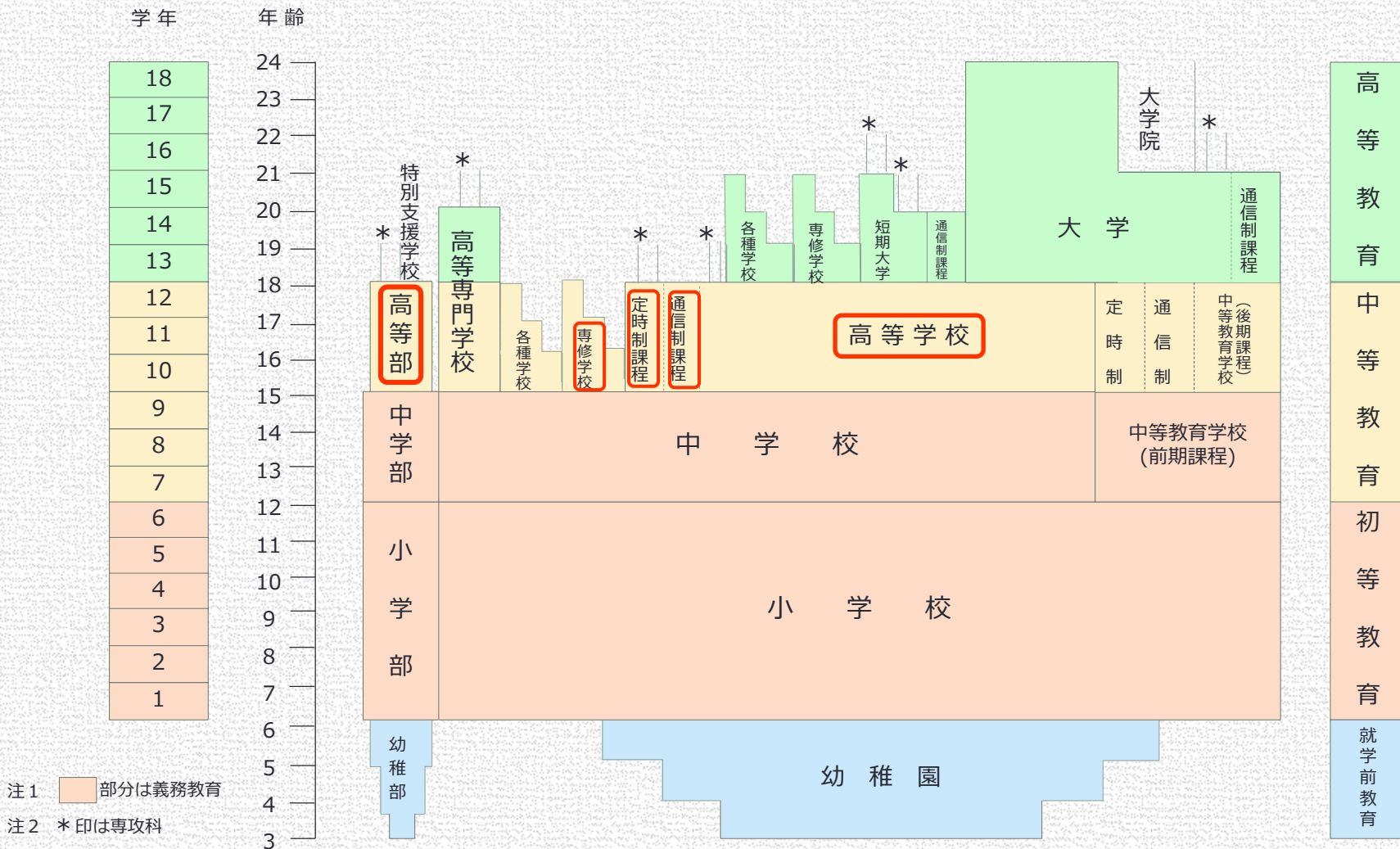
# 進路勉強会

---

知的障がいを持った子どもたちの進路

2. 目次
3. 日本の学校系統図
4. H27年度都内公立中学校特別支援学級課程別進学者の割合
5. H27年度都内公立特別支援学校中等部課程別進学者の割合
- 6.7. 都立エンカレッジスクール（全日制高等学校）について
- 8.9. 都立チャレンジスクール（定時制高等学校）について
10. 特別支援学校・学級の調査書の扱いについて
11. 都立高等学校受験に使用する調査書見本
- 12.13. 通信制高等学校と通信制サポート校について
- 14.15. 東京都立特別支援学校高等部一覧
- 16.17. 普通科と就業技術科の比較 1, 2
- 18-21. 平成27年度職業学科入学者選考における適正検査問題
- 22.23. 職業学科（就業技術科・職能開発科）の入学者選考 1, 2
24. 雇用対策の対象となる障害者数と一般就労への現状
25. H27年度 都内公立特別支援学校高学部（知的障害）  
状況別卒業生数の割合
26. H27年度 都内公立特別支援学校高学部（知的障害）  
社会福祉施設入所卒業生の割合
27. 障害者自立支援法と就労系障害福祉サービスについて
28. H27年度 特別支援学校高等部 形態別就業者の割合
29. 特例子会社の一例
30. 特例子会社に対するアンケート調査 I・II
31. 企業が考える18歳という年齢と就労能力
32. 採用時に重要視する条件
33. 企業が希望する雇用の年齢層別状況
34. 知的障害者の雇用形態と最低賃金
35. 就労において企業が期待する力
36. 賃金の決定に関して考慮される事項
37. 障がい者を雇用する場合としない場合の企業のコスト比
38. 企業が教育機関へ期待する事 1
39. 企業が教育機関へ期待する事 2
40. 知的障がいを持つ子どもの保護者に対するアンケート調査
41. アンケート回答者の状況
42. 子どもと保護者の意思による進路決定の割合
43. 進路決定における選択肢の状況
44. 現在の特別支援学校高等部に対する保護者の要望
- 45.46. 現在の特別支援学校高等部就業技術科に対する  
保護者の意見・要望 1, 2
47. 各教育機関の連携について（希望進路別）
48. 各教育機関の連携について（在籍学校別）
49. 教育機関間の連携がなされていないと考える理由
- 50.51. 高等学校・高等部生の保護者の思い 1, 2
- 51-55. 小中学校・小中学部生の保護者の思い 1 - 4

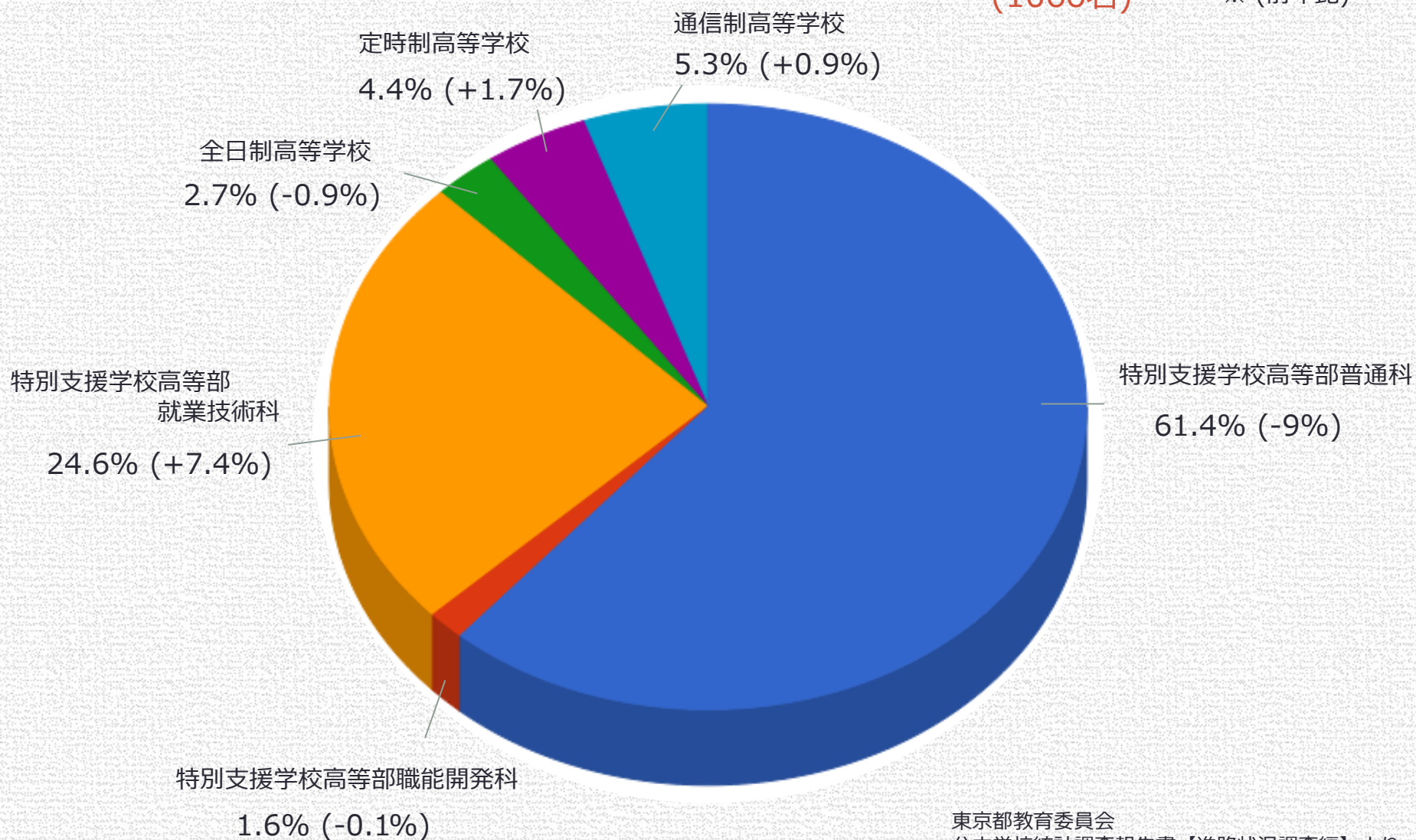
# 日本の学校系統図



# H27年度 都内公立中学校特別支援学級 課程別進学者の割合

(1066名)

※ (前年比)

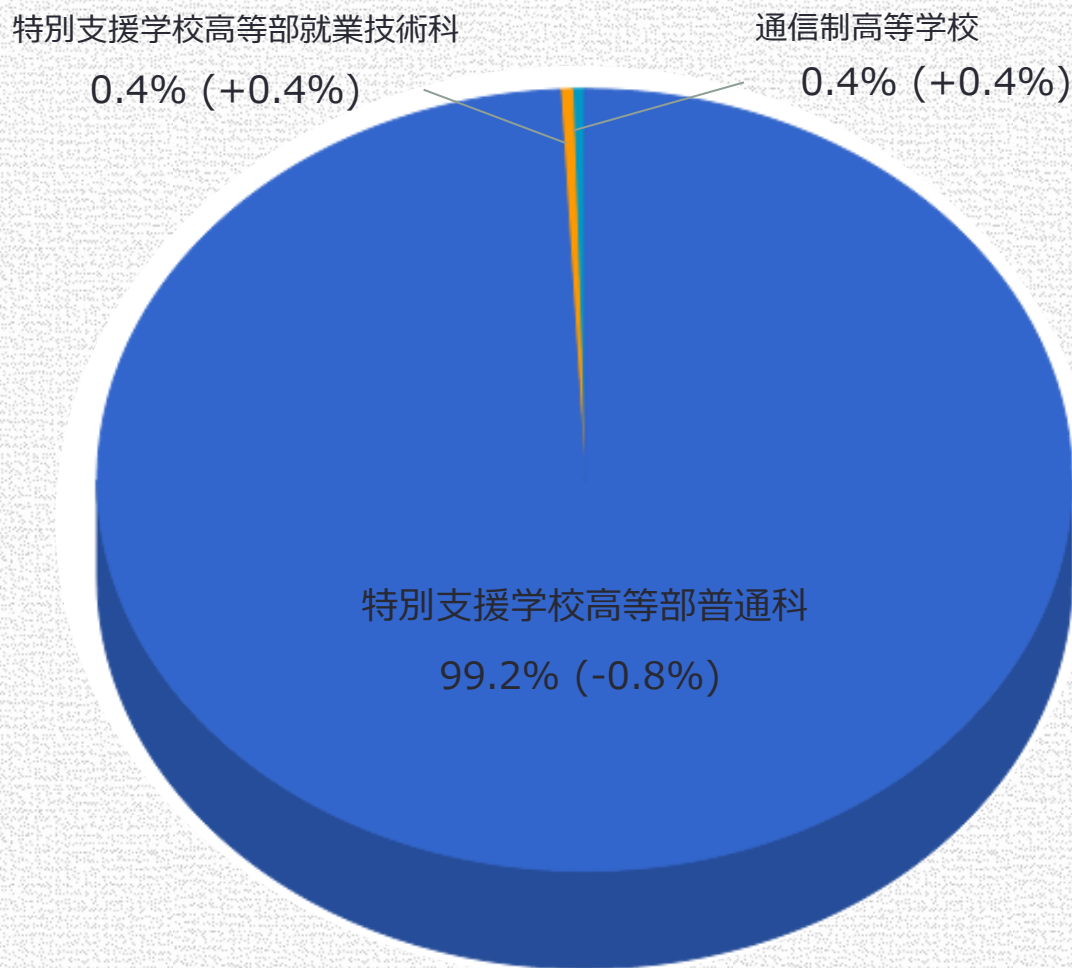




# H27年度 都内公立特別支援学校中学部 課程別進学者の割合

(494名)

※ (前年比)



※特別支援学校職能開発科・全日制高等学校・定時制高等学校は 0%

※前年度は特別支援学校普通科への進学率 100%

## 都立エンカレッジスクール（全日制高等学校）について

エンカレッジスクールは、小・中学校で十分に能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、自己の課題を克服し、基礎基本の定着と学力の向上を目指した、学び直しを目的とした都立の全日制学年制高等学校です。

- ・ 都立足立東高等学校（足立区）
- ・ 都立蒲田高等学校（大田区）
- ・ 都立練馬工業高等学校（練馬区） → 専門学科/キャリア技術科
- ・ 都立秋留台高等学校（あきる野市）
- ・ 都立東村山高等学校（東村山市） → スポーツ推薦実施・進学クラス設置

# 都立エンカレッジスクール（全日制高等学校）について

## ～都立秋留台高等学校の例～

- 入学への前提条件 『学ぶ事への意欲がある事』
- 1クラス担任2人で対応
- 学年制 → 授業出席時数・授業態度・課題・提出物・定期テスト
- 選抜入試 → 面接・調査書・小論文（600字50分）

### ※学力検査なし

観点別学習状況評価を点数化（詳細はP.10-11）

- 卒業後の進路 → 4割進学（指定公推薦） 5割就職 1割未定
- 全校で年間約30人中途退学
- 障害者手帳保持者（知的障害）の入学者あり（昨年10名弱）
- 教職員は特別支援教育免許状は未取得
- 部活動あり
- **事前に個別相談を受ける事が重要**

## 都立チャレンジスクール（定時制高等学校）について

チャレンジスクールは、小・中学校での不登校や高校での中途退学を経験した生徒など、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見付けてチャレンジしていく、都立の定時制（3部制）単位制高等学校です。

- ・ 都立大江戸高等学校（江東区）→ 行事や進学指導
- ・ 都立桐ヶ丘高等学校（北区）→ 商業やアート・デザイン
- ・ 都立世田谷泉高等学校（世田谷区）→ スポーツやものづくり
- ・ 都立稔ヶ丘高等学校(中野区) → キャリア教育と生活・進学指導
- ・ 都立六本木高等学校（港区）→ 地域交流やキャリア教育
- ・ 都立八王子拓真高等学校（八王子市）

※八王子拓真高等学校はチャレンジ枠

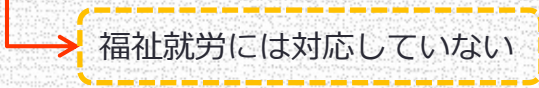


# 都立チャレンジスクール（定時制高等学校）について

## ～都立稔ヶ丘高等学校の例～

- 入学への前提条件 『1人で行動（自己管理）ができる事』
- 1クラス30人 担任と副担任（2クラスに1人）で対応
- 定時制 → 午前・午後・夜間の3部制      • 総合学科
- 単位制 → 授業出席時数・提出物・定期テスト（年2回）
- 選抜入試 → 自己申告書・面接・作文（600字50分）

### ※学力検査なし・調査書（内申点）不要

- 卒業後の進路 → 6割進学（指定公推薦） 1割弱就職 3割未定
- 全校で年間約50人中途退学 
- 障害者手帳保持者（知的障害）の入学もケースにより対応
- 教職員は特別支援教育免許状は未取得      • 部活動あり
- 事前に個別相談を受ける事が重要

## 特別支援学校・学級の調査書（公立高等学校受験用）の扱いについて

調査書は、ほとんどの高等学校の受験の際に必要で、

\* 受験生の各必修教科および選択教科の観点別学習状況の評価・評定

\* 特別活動の記録

\* 出欠の記録

\* 総合所見

などが記載される。

特別支援教育とは教育課程が異なるため、この項目の欄は**斜線**となる。一つでも評価・評定がつく教科があれば、それぞれの教科の欄に数値が記載される。

学者選抜を行う高等学校は、これらの記載に基づいて受験生の評価を行う。

入学者選抜を行う高等学校が独自の方法で点数化し（内申点）処理する。

内申点が見つからない調査書については、添付資料（特別支援学校・学級の通知表等）と当日の得点（学力検査等）を参考に、このことが不利にならないように高等学校が独自に算出する。

公立高等学校は在籍学校の種別に関係なく受験資格があるとされる。

私立高等学校は調査書の扱い・受験資格の有無まで学校独自の基準になっている。





# 通信制高等学校と通信制サポート校について

## 通信制高等学校

全日制・定時制と並ぶ教育課程で、一人ひとりに合ったペースで学習し卒業資格を取得する事ができる。不登校で悩む生徒や、発達障害により通常の学習が難しい生徒も、自分のペースで学ぶ事ができ、課題の添削(レポート)・面接指導(スクーリング)・試験(テスト)等を通じて単位を取得していく高等学校です。

## 通信制サポート校

学習面、生活面、精神面でサポートをしながら、単位の取得や進級などの支援を行う民間の教育施設で、学校教育法で定められた法的な「学校」としての認可を受けていない。その為、サポート校を卒業するだけでは高卒の資格(学歴)取得はできない。高卒の資格を取得するには、必ず提携している通信制高等学校への同時入学が必要となる。

※本日、案内資料のある私立通信制高等学校・サポート校

明蓬館高等学校(SNEC)・東京文理学院高等部・東京共育学園高等部・(武蔵野東高等専修学校)



## 通信制高等学校と通信制サポート校について

- 通信制高等学校とサポート校に同時入学により高卒資格取得
  - 学歴は通信制高等学校卒業、日常の学習・生活拠点はサポート校
- サポート校によりコース設定・学習方法・単位取得方法・通学頻度など多様
  - 子どもに適したスタイルのサポート校を選択
- 同時入学する通信制高等学校はサポート校の指定・提携校または自由
- 通信制高等学校とサポート校の両校への費用がかかる
 

(通信制高等学校費用 約25~40万円/年・サポート校費用 70~100万円/年)

対象 ↑
高等学校等就学支援金
↑ 対象外
- サポート校は教員免許の所持義務がなく、施設の設置基準がない
- 選考方法 面接・学力検査など 調査書必要
- 卒業後の進路 → 進学（大学/短大/専門学校・就職他）
- **特別支援教育にも対応する傾向にあるが事前相談が必要**
  - 配慮により願書の配布が実質合格のサポート校も

## 東京都立特別支援学校高等部等一覧

障害種別	学校名	課程	学校名	課程
障 視 害 覚	文京盲学校	普通科 専攻科他	八王子盲学校	普通科 専攻科他
障 聴 害 覚	立川ろう学校	普通科 専攻科	葛飾ろう学校	普通科 専攻科
	中央ろう学校	普通科		
肢 体 不 自 由	光明特別支援学校	普通科	多摩桜の丘学園	普通科
	小平特別支援学校	普通科	墨東特別支援学校	普通科
	北特別支援学校	普通科	あきる野学園	普通科
	城南特別支援学校	普通科	永福学園	普通科
	城北特別支援学校	普通科	青峰学園	普通科
	村山特別支援学校	普通科	府中けやきの森学園	普通科
	町田の丘学園	普通科	志村学園	普通科
	八王子東特別支援学校	普通科	鹿本学園	普通科
	大泉特別支援学校	普通科		

障害種別	学校名	課程	学校名	課程
知的障害	青鳥特別支援学校 *	普通科	多摩桜の丘学園	普通科
	王子特別支援学校 *	普通科	足立特別支援学校 *	普通科
	八王子特別支援学校	普通科	清瀬特別支援学校	普通科
	武蔵台学園	普通科	葛飾特別支援学校 *	普通科
	しいの木特別支援学校	普通科	港特別支援学校 *	普通科
	七生特別支援学校	普通科	白鷺特別支援学校	普通科
	町田の丘学園 *	普通科	板橋特別支援学校 *	普通科
	矢口特別支援学校	普通科	田無特別支援学校 *	普通科
	羽村特別支援学校	普通科	あきる野学園	普通科
	墨田特別支援学校	普通科	田園調布特別支援学校 *	普通科
	江東特別支援学校	普通科	練馬特別支援学校 *	普通科
	中野特別支援学校	普通科	府中けやきの森学園	普通科
	永福学園	就業技術科	志村学園	就業技術科
	青峰学園	就業技術科	水元小合学園	就業技術科
	南大沢学園	就業技術科		
	足立特別支援学校 *	職能開発科	港特別支援学校 *	職能開発科

※今後\*印の高等部（全10校）に、職能開発科を設置していく計画予定・\*印は設置済みの高等部

## 普通科と就業技術科の比較 1

	普通科	就業技術科
入学関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員がなく、入学相談がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員があり、入学選考される。 永福・南大沢—100名 青峰—40名 志村学園・水元小合—80名</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>住所による通学区域制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全都が通学区域</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学生徒数により学級数が決まる。</li> <li>生徒数の増加により特別教室をつぶして普通教室にしなくてはならない。 (→教育環境が低下する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境は整備されている事が多い。</li> <li>施設にお金がかけている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛の手帳 or 知的障害診断書が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛の手帳 or 知的障害診断書が必要。</li> </ul>
学級編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員 : 1クラス8名 (重度重複クラス3名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員 : 1クラス10名</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任 : 2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任 : 1名 (2クラスに1名副担任)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年から類型化のクラスになる学校が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年で各コースの実習 →2.3年のコースへ</li> </ul>



## 普通科と就業技術科の比較 2

	普通科	就業技術科
授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ クラス,教科(国語・数学等) 専科(音楽・美術等),作業 (→多様なグループ編成により、 生徒同士の交流が多い。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ クラス,2クラス合同,体育,コース</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事が大切にされている。</li> <li>・特別時程がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事はあるが、普段の授業が重視される。</li> <li>・特別時程がほとんどない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習や生活単元学習がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアガイダンスの時間がある。</li> <li>・朝と帰りに10分のショートホーム ルームがある。</li> </ul>
進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業,作業所,生活実習所等。</li> <li>・進路決定に向けて(本人の希望を踏 まえた)保護者の意向が大きなウエ イトを占める。</li> <li>・アフターケアを行う学校が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業就労を目指す。</li> <li>・進路先は、職種や通勤時間が考慮され る。</li> <li>・卒業後は地域の就労支援センターが頼 りになる。</li> </ul>
部活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員所属</li> </ul>

# 平成27年度職業学科入学者選考における適正検査問題

## 適性検査 I - 1 問題

### 【問題】

下に示した文や計算をよく読んで、正しい方の  を選び、  の中をぬりつぶさない。

なお、ぬり方の良い例のように、注意してぬりつぶすこと。

ぬり方の良い例	<input checked="" type="radio"/> 「休日」は「きゅうじつ」と読む。	<input type="radio"/> 「休日」は「やすみ」と読む。
	<input checked="" type="radio"/> 1+2=3 <input type="radio"/> 2+2=3	
ぬり方の悪い例	<input type="radio"/> 1+2=3 <input checked="" type="radio"/> 2+2=3	
	<input checked="" type="radio"/> 1+2=3 <input type="radio"/> 2+2=3	

(問1)	<input checked="" type="radio"/> 「用いる」は「よいういる」と読む。	<input type="radio"/> 「用いる」は「もちいる」と読む。
(問2)	<input checked="" type="radio"/> 「親しむ」は「あやしむ」と読む。	<input type="radio"/> 「親しむ」は「したしむ」と読む。
(問3)	<input checked="" type="radio"/> 「投票」は「とうひょう」と読む。	<input type="radio"/> 「投票」は「とうきゅう」と読む。
(問4)	<input checked="" type="radio"/> 「通る」は「とおる」と書く。	<input type="radio"/> 「通る」は「とうる」と書く。
(問5)	<input checked="" type="radio"/> 「やしなう」は「養う」と書く。	<input type="radio"/> 「やしなう」は「食う」と書く。

(問6)	<input checked="" type="radio"/> 「荷物をおくる」は「荷物を送る」と書く。	<input type="radio"/> 「荷物をおくる」は「荷物を返る」と書く。
(問7)	<input checked="" type="radio"/> 「ファックス」は「ファクシミリ」と同じである。	<input type="radio"/> 「ファックス」は「フォクシミリ」と同じである。
(問8)	<input checked="" type="radio"/> 「消極的」の反対語は「協力的」である。	<input type="radio"/> 「消極的」の反対語は「積極的」である。
(問9)	<input checked="" type="radio"/> 道を歩いていたら、雪を降ってきた。	<input type="radio"/> 道を歩いていたら、雪が降ってきた。
(問10)	<input checked="" type="radio"/> 俳句はふつう、五・七・五の十七音である。	<input type="radio"/> 俳句はふつう、五・七・五・七・七の三十一音である。
(問11)	<input checked="" type="radio"/> 「先生」をローマ字の大文字だけで書くと、「SANSAI」である。	<input type="radio"/> 「先生」をローマ字の大文字だけで書くと、「SENSEI」である。
(問12)	<input checked="" type="radio"/> 国語辞典で調べると、「朝」という言葉は「足」という言葉よりも前にのっている。	<input type="radio"/> 国語辞典で調べると、「朝」という言葉は「赤」という言葉よりも前にのっている。
(問13)	<input checked="" type="radio"/> 一万七百九と10709は、同じ数を表す。	<input type="radio"/> 一万七百九と17009は、同じ数を表す。
(問14)	<input checked="" type="radio"/> 23+5=18	<input type="radio"/> 23+5=28
(問15)	<input checked="" type="radio"/> 19-7=26	<input type="radio"/> 19-7=12
(問16)	<input checked="" type="radio"/> 5+6-2=13	<input type="radio"/> 5+6-2=9

(問17)	<input checked="" type="radio"/> 4+2×6=16	<input type="radio"/> 4+2×6=36
(問18)	<input checked="" type="radio"/> 9÷3×3=1	<input type="radio"/> 9÷3×3=9
(問19)	<input checked="" type="radio"/> 6.2+1.1=5.1	<input type="radio"/> 6.2+1.1=7.3
(問20)	<input checked="" type="radio"/> 5.7-4.9=0.8	<input type="radio"/> 5.7-4.9=8
(問21)	<input checked="" type="radio"/> $\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{5}$	<input type="radio"/> $\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{10}$
(問22)	<input checked="" type="radio"/> 午後3時10分の30分前は、午後3時40分である。	<input type="radio"/> 午後3時10分の30分前は、午後2時40分である。
(問23)	<input checked="" type="radio"/> 1250gは12.5kgと同じ重さである。	<input type="radio"/> 1250gは1.25kgと同じ重さである。
(問24)	<input checked="" type="radio"/> 100円のリングを2個と90円のみかんを5個買うと、代金は600円である。	<input type="radio"/> 100円のリングを2個と90円のみかんを5個買うと、代金は650円である。
(問25)	<input checked="" type="radio"/> 駐車場に車が5台とまっていた。そこへ、2台の車が入ってきてとまった。その後、3台の車が出ていった。今、とまっている車は4台である。	<input type="radio"/> 駐車場に車が5台とまっていた。そこへ、2台の車が入ってきてとまった。その後、3台の車が出ていった。今、とまっている車は10台である。

次のページに続く

# 平成27年度職業学科入学者選考における適正検査問題

## 適性検査 I - 2 問題

【問題1】次の問いに答えなさい。

(問1)下の表には◆ ▲ ★の印はいくつありますか。それぞれの個数を数え、数字で答えなさい。

表

	◆					★	◆
★		◆				◆	
	▲		★		◆		▲
	★			◆		★	
	◆					★	

答え

◆の個数	▲の個数	★の個数

(問2)下の①から⑤までの説明にあてはまる印は、上の表のうちどれですか。例のように正しいものをひとつ選び、○で囲みなさい。

例	上から2段目、左から1番目	答え	◆ ▲ (★)
①	上から3段目、左から2番目	答え	◆ ▲ ★
②	下から3段目、右から3番目	答え	◆ ▲ ★
③	上から2段目、右から2番目	答え	◆ ▲ ★
④	下から2段目、左から2番目	答え	◆ ▲ ★
⑤	上から3段目、右から1番目	答え	◆ ▲ ★

(問3)例のように、①から③までの説明に従って、【答え】に④～

⑤を記入しなさい。

例 上から1段目、左から2番目に⑦を記入しなさい。

	⑦						

- 上から3段目、左から2番目に①を記入しなさい。
- 下から4段目、右から2番目に②を記入しなさい。
- 下から3段目、左から4番目に③を記入しなさい。

【答え】


【問題2】

上の見本の表を下の表に書き写したところ、まちがいがありました。例のように、下の表のまちがっているところに、      （二重線）を引いて、正しく書き直しなさい。

なお、下の表には、例のほかに、まちがいが4か所あります。

(見本)

表

商品番号	品名	種別	数量	単位	単価	金額
1101	布粘着テープ	赤	10	本	250	2,500
1421	コピー用紙	B5	100	枚	1,610	161,000
5417	色上質紙	緑	130	冊	488	63,440
5789	封筒	洋長2	3,400	枚	7	23,800
9067	付せん	小	250	パック	164	41,000
					合計	291,740

表

商品番号	品名	種別	数量	単位	単価	金額
1101	布粘着テープ	赤	10	本	250	2,500
2421	コピー用紙	B5	100	枚	1,610	161,000
5417	色上質紙	緑	130	冊	488	63,440
5789	封筒	洋長2	3,400	束	7	23,800
9067	付せん	中	250	パック	164	41,000
					合計	291,240

# 平成27年度職業学科入学者選考における適正検査問題

## 適性検査 I - 3 問題

### 【問題1】

下の値段表の値段と同じになるように、次のページの作業台紙に、ラベルシートからラベルを選び、わくからはみ出さないようにはりなさい。

ラベルのはり方は、例のようにしなさい。

### 【値段表】

商品名	値段
ぶたひき肉 100グラム	98円
鳥もも肉 100グラム	106円
ハム 300グラム	273円
ベーコン 400グラム	480円
ほうれんそう 1ふくろ	128円
大根 1本	130円
じゃがいも 500グラム	473円
にんじん 3本	237円
卵 1パック	135円
りんご 4個	398円

商品名	値段
しょうゆ 1本	238円
牛ロース肉 100グラム	298円
マグロ 100グラム	325円
みそ 750グラム	275円
かぼちゃ 100グラム	58円
キャベツ 1個	158円
とうふ 1パック	88円
牛乳 1本	178円
いちご 1パック	428円
サラダ油 1本	338円

例

商品名	値段
トマト 4個	224円

〈作業台紙〉

商品名	値段	商品名	値段
ぶたひき肉 100グラム		しょうゆ 1本	
鳥もも肉 100グラム		牛ロース肉 100グラム	
ハム 300グラム		マグロ 100グラム	
ベーコン 400グラム		みそ 750グラム	
ほうれんそう 1ふくろ		かぼちゃ 100グラム	
大根 1本		キャベツ 1個	
じゃがいも 500グラム		とうふ 1パック	
にんじん 3本		牛乳 1本	
卵 1パック		いちご 1パック	
りんご 4個		サラダ油 1本	

ラベルシート

### 【問題1】用

398円	428円	237円	98円
325円	480円	58円	473円
178円	128円	238円	338円
273円	106円	135円	298円
88円	158円	275円	130円

### 【問題2】用

10-01	10-04	10-07	10-08
27-12	27-22	27-58	27-65
27-81	31-05	31-23	31-46
31-79	31-97	40-30	40-45
40-88	55-02	55-05	55-55
55-82	68-34	68-43	68-68
68-71	79-06	79-09	84-17
84-18	84-24		





# 職業学科の入学者選考 1

(就業技術科・職能開発)

## 応募資格

- \* 知的障害がある者(対象の生徒は就業技術科は軽度・職能開発科は軽度～中度の知的障害)
- \* 都内の中学校等に在籍し、来年3月に卒業見込みまたは卒業した者
- \* 都内に保護者と共に住所を有し、一人で通学する事ができる者
- \* 志願する学科設置校において「個別説明」を受けた者
- \* 高等部学科の教育方針の下、学校生活を有意義に過ごすことができ、将来、企業への就労を目指す者

両学科へ入学した場合、企業就労を目指す以外の進路はとれない。その為に個別説明を受けることが応募資格となっていて、企業就労の意思を本人・保護者に対し確認される。やむなく途中で進路変更をする際も、特別支援学校高等部普通科への転入学はできず、退学後に改めて4月からの再入学となる。

## 入学選考の得点比率

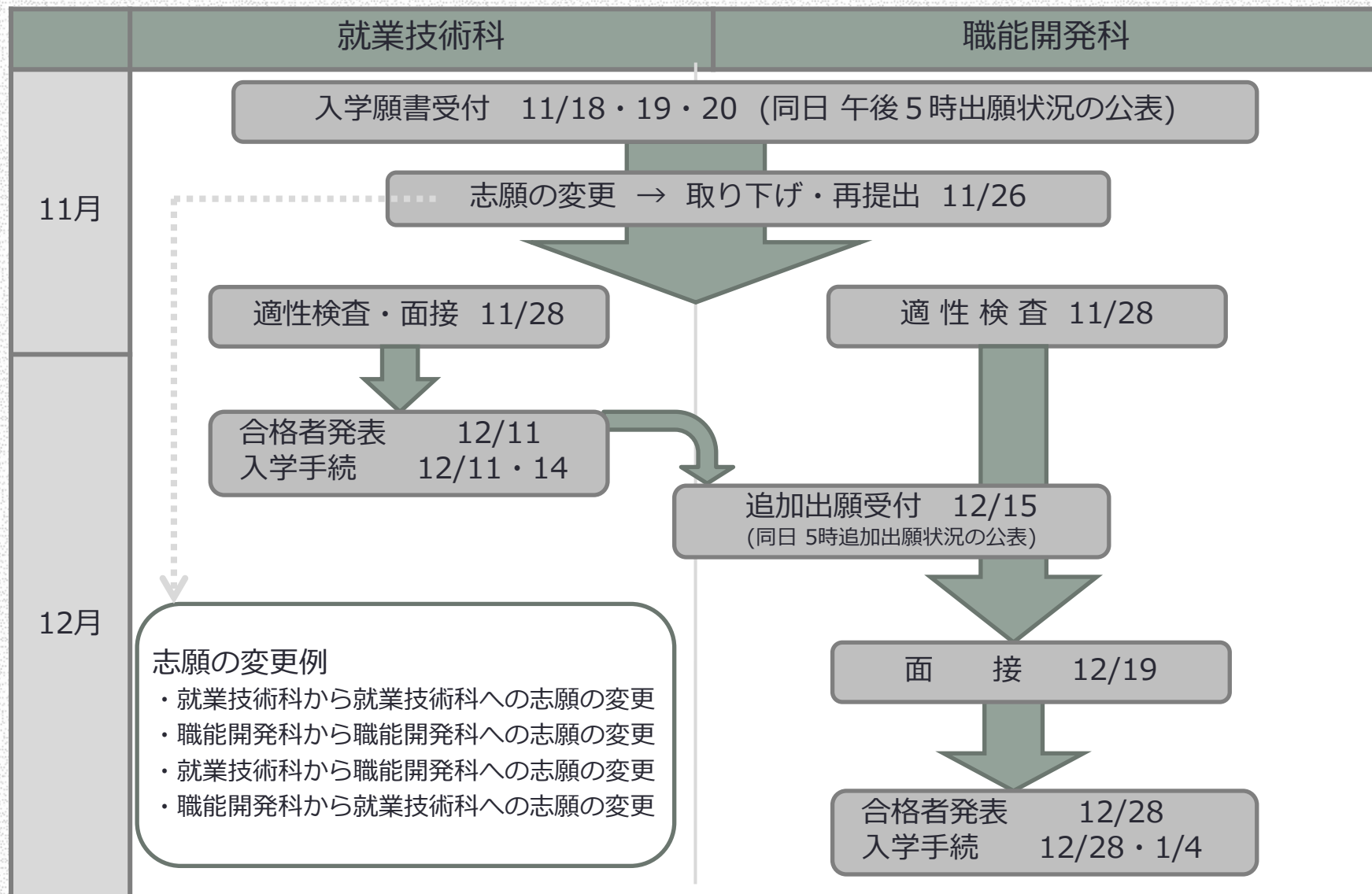
検査等の得点の合計 1000点

検査方法等	適性検査Ⅰ	適性検査Ⅱ	面接	調査書
得点の比率	3	1	4	2
得点の満点	300点	100点	400点	200点

# 職業学科の入学者選考 2

(就業技術科・職能開発)

H28年度入学者用



# 雇用対策の対象となる障害者数と一般就労への現状

障害者総数 **約788万人**中 18歳～64歳の在宅者数 **約324万人** (内訳：身111万人,知41万人,精172万人)

一般就労への  
移行の現状

- ① 特別支援学校から一般企業への就職が **約28.8%** 障害福祉サービスの利用が **約51.1%**  
 ② 障害福祉サービスから一般企業への就職が 年間**1.3%** (H15) → **4.5%** (H25)  
 ※就労移行支援からは **27.2%** (H26)

## 障害福祉サービス

就労移行支援	約2.4万人
就労継続支援 A型	約4.2万人
就労継続支援 B型	約17.7万人
	(平成26年10月)

小規模作業所 約0.5万人 (平成24年4月)  
 地域活動支援センター

就労系障害福祉サービス  
から一般就労への移行

1,288人/H15	1.0
2,460人/H18	1.9倍
3,293人/H21	2.6倍
4,403人/H22	3.4倍
5,675人/H23	4.4倍
7,717人/H24	6.0倍
10,001人/H25	7.8倍
<b>10,920人/H26</b>	<b>8.5倍</b>

## 企業等

雇用者数

約45.3万人  
(平成27年)

ハローワークからの  
紹介就職件数  
64,502件

大学・専修学校への進学等

804人/年

12,555人/年

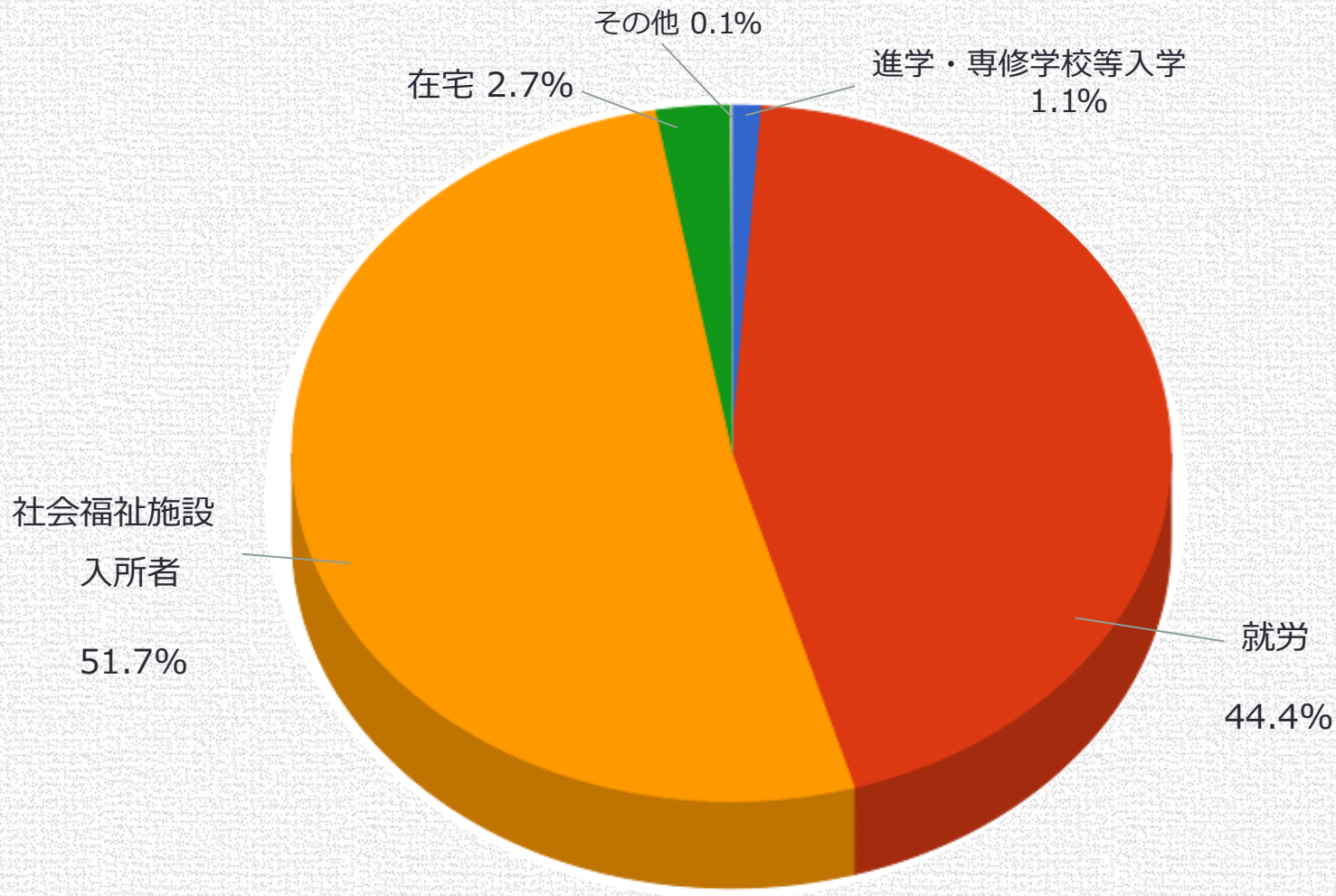
## 特別支援学校

卒業生 20,532人/年 (平成27年3月卒)

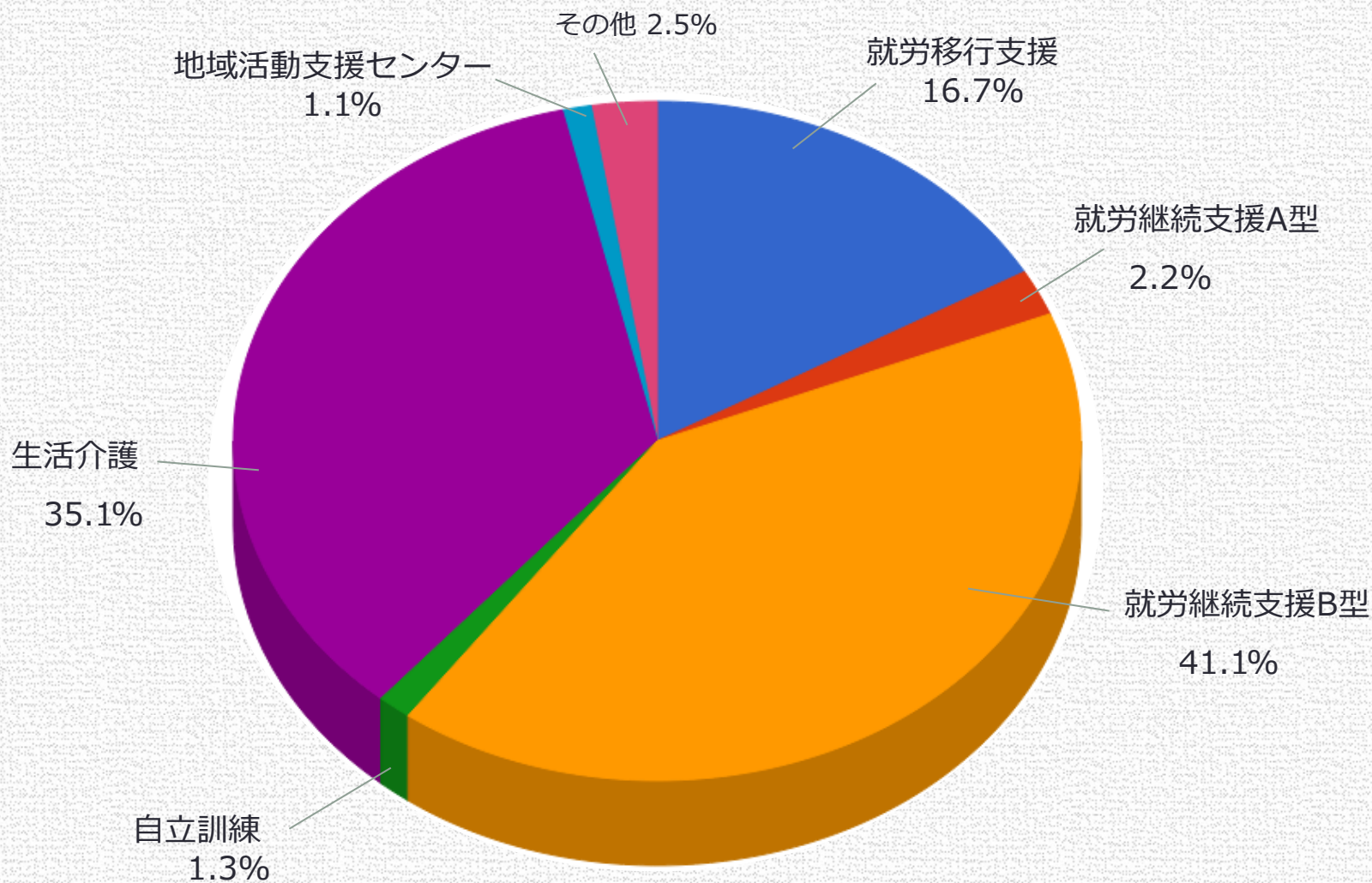
5,909人/年



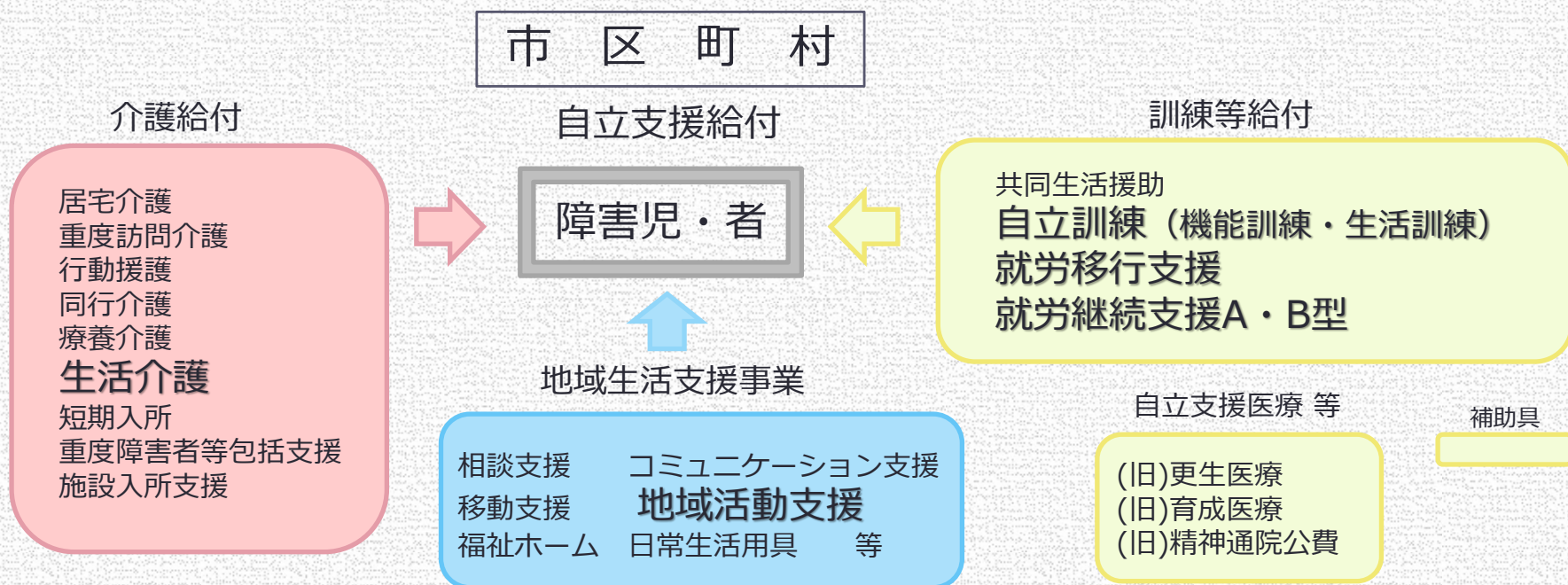
## H27年度 都内公立特別支援学校高学部（知的障害） 状況別卒業生数の割合



## H27年度 都内公立特別支援学校高学部（知的障害） 社会福祉施設入所卒業者の割合



# 障害者総合支援法と就労系障害福祉サービスについて



## 就労移行支援

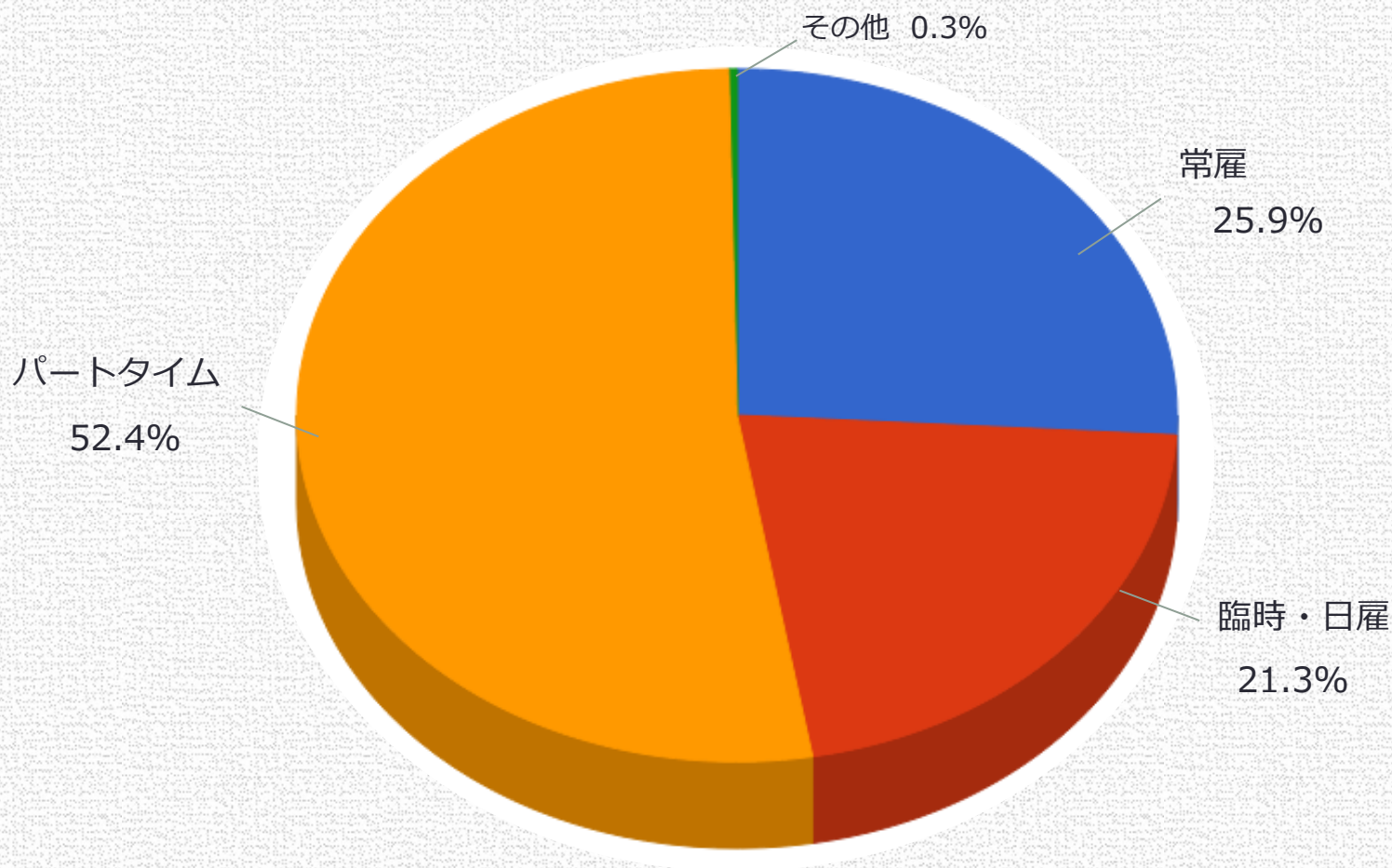
一般企業等への就労を希望する障害者に、一定期間、必要な知識や能力を身につける職業訓練や実習、また就職後には職場定着支援を行う。

## 就労継続支援A・B型

一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。雇用契約を結ぶA型と、雇用契約を結ばないB型がある。A型は利用者と雇用契約を結ぶため、原則最低賃金を保障し、社会保険への加入も対象となることがある。

平均工賃は、**A型** → 約70000円/月 ・ **B型** → 約15000円/月

## H27年度 特別支援学校高等部 形態別就業者の割合



※常雇...雇用契約期間が1年を超える、または、雇用契約期間を定めない雇用形態

※臨時雇...雇用契約期間が1か月以上1年以下の雇用形態

※日雇...雇用契約期間が1か月未満の雇用形態

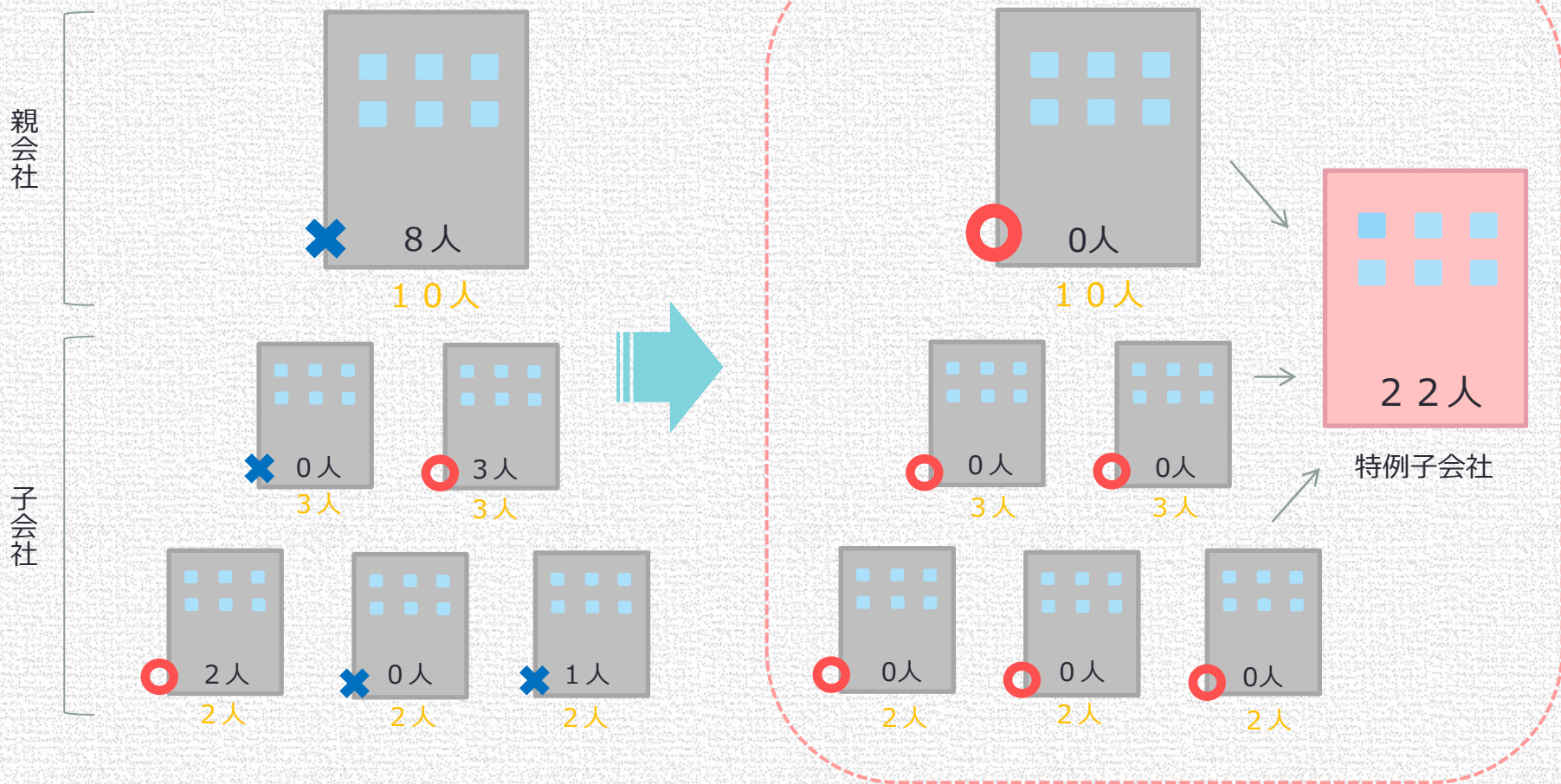
※パートタイム...同一事業所における1週間の所定労働時間が通常より短い雇用形態



## 特例子会社の一例

障害者雇用促進法により  
従業員数 50人以上の企業の事業主には  
法定雇用率2.0%(民間)の以上の障害者雇用の義務

実際の雇用人数  
法定雇用人数



## 特例子会社に対するアンケート調査 I・II

### 調査対象

全国に391社(平成26年5月末現在)ある特例子会社のうち  
東京都内に所在地がある120社の中で  
ホームページ上またはメールでのアンケートの送付ができる(I)82社 / (II)62社

### 調査期日

(I)平成27年8月5日～31日  
(II)平成27年10月15日～11月10日

### 調査方法 《(I)(II)共通》

- ①アンケートフォームのURLを送付後、パソコン等からアクセスしインターネット上で回答してもらう。
- ②メール添付にてアンケートファイル(pdfまたはword)を送付後、回答ファイルを添付したメールを返信してもらう。

### 回答状況

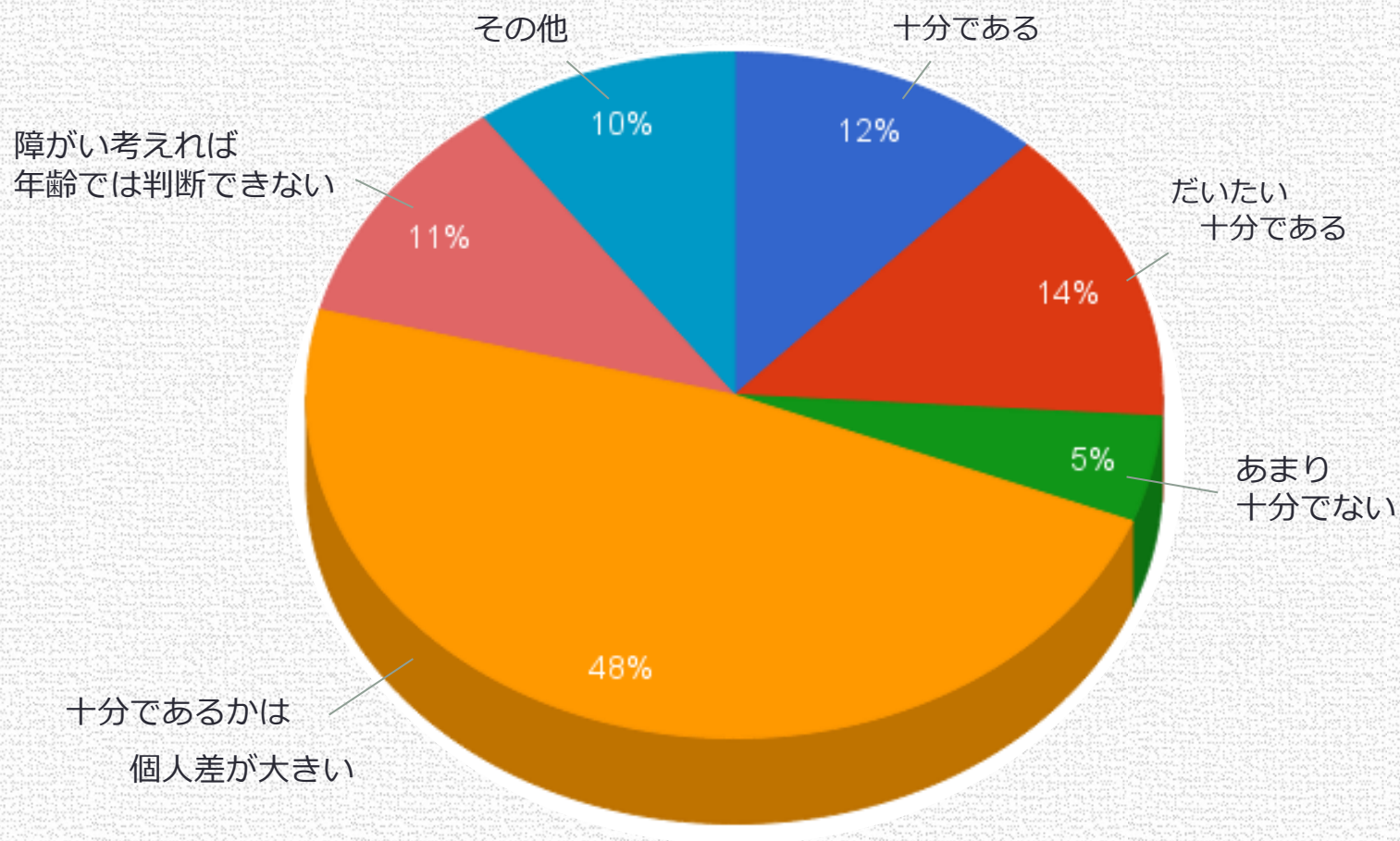
回答数 (I)51社 / (II)24社 有効回答数 (I)50社 / (II)24社

回答率 (I)60.9% / (II)38.7%

※有効回答における特例子会社の知的障がい者の雇用率は、(I)94% / (II)91%

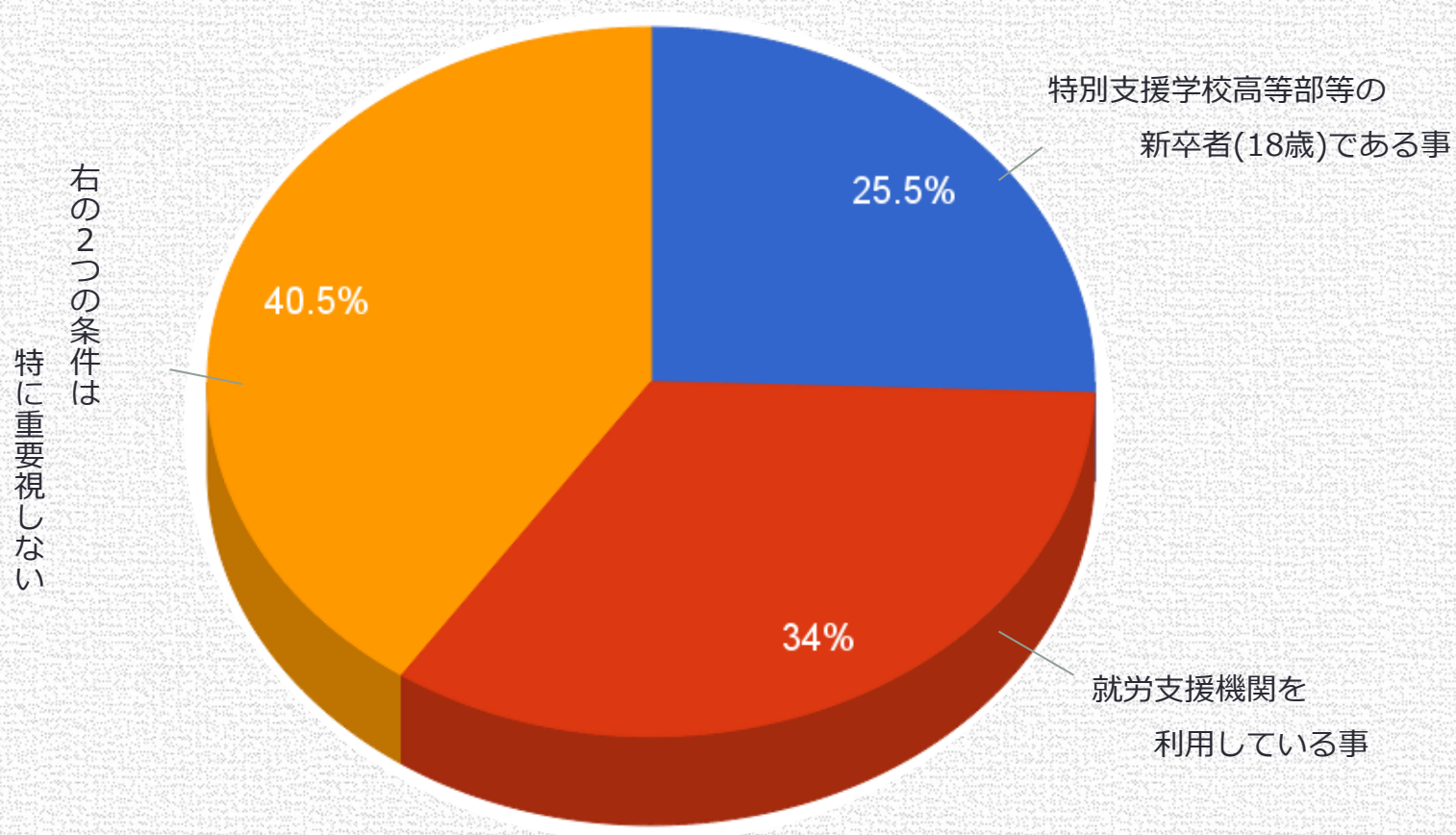
## 企業が考える18歳という年齢と就労能力

質問：知的障がい者において18歳という年齢は就労に十分な年齢であると思いますか？



## 採用時に重要視する条件

質問：知的障がい者を採用する際に重要視される条件は次のうちどれですか？

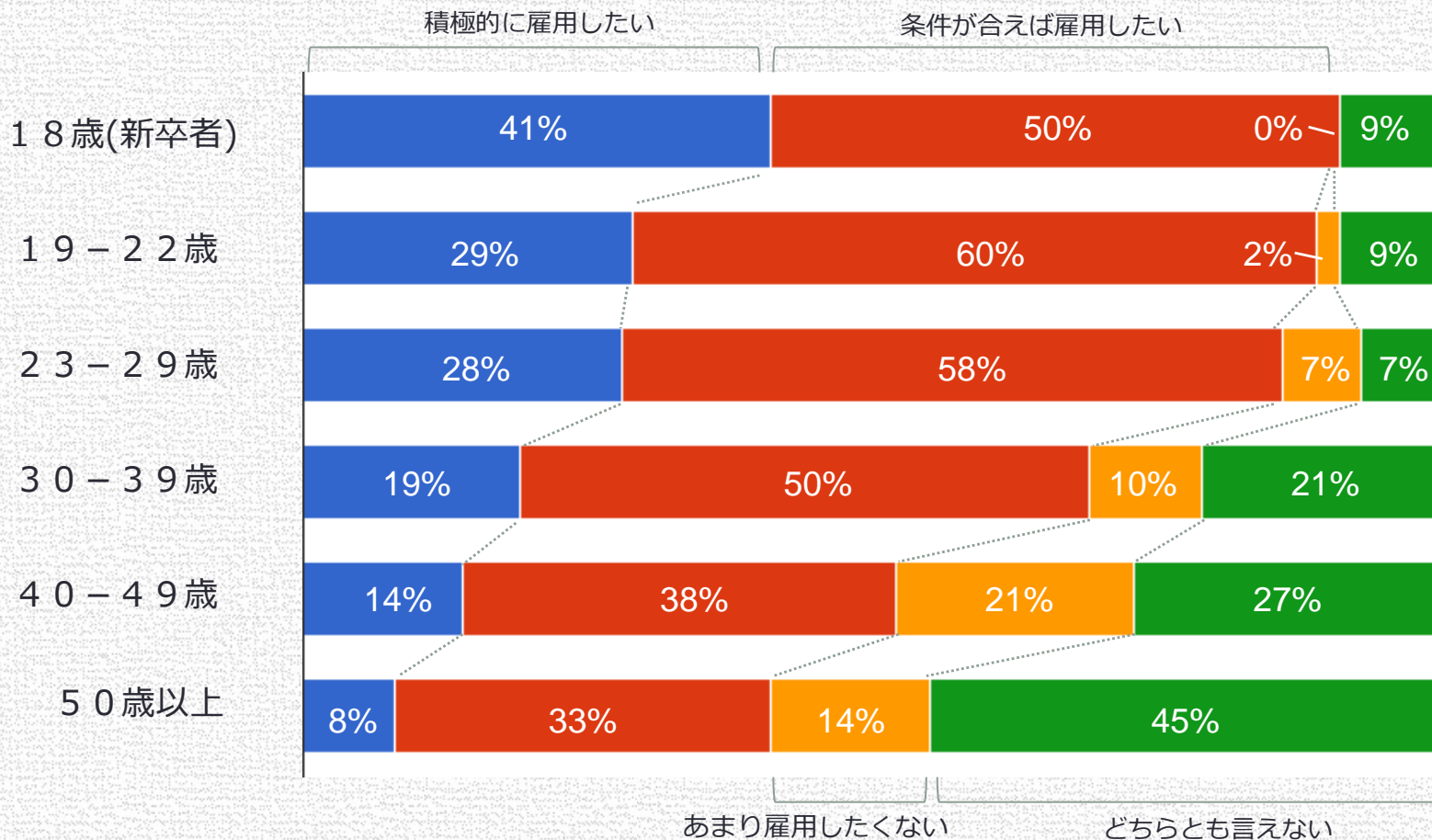




## 企業が希望する雇用の年齢層別状況

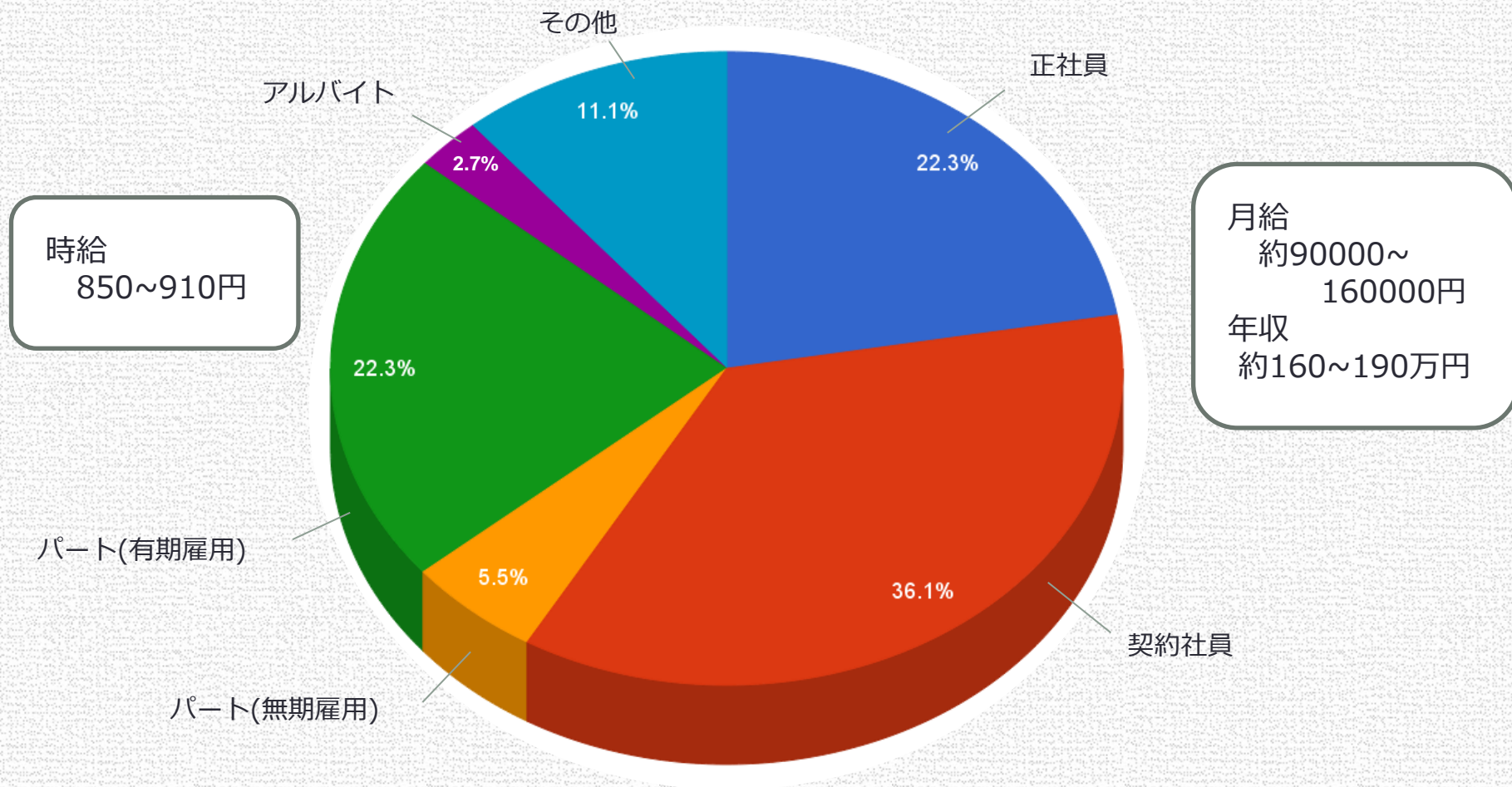
質問F：次の年齢層の障害者を雇用する事に対し、どのように思われますか？

【特例子会社50社の回答・1社につきそれぞれの年齢層に1項目を選択】



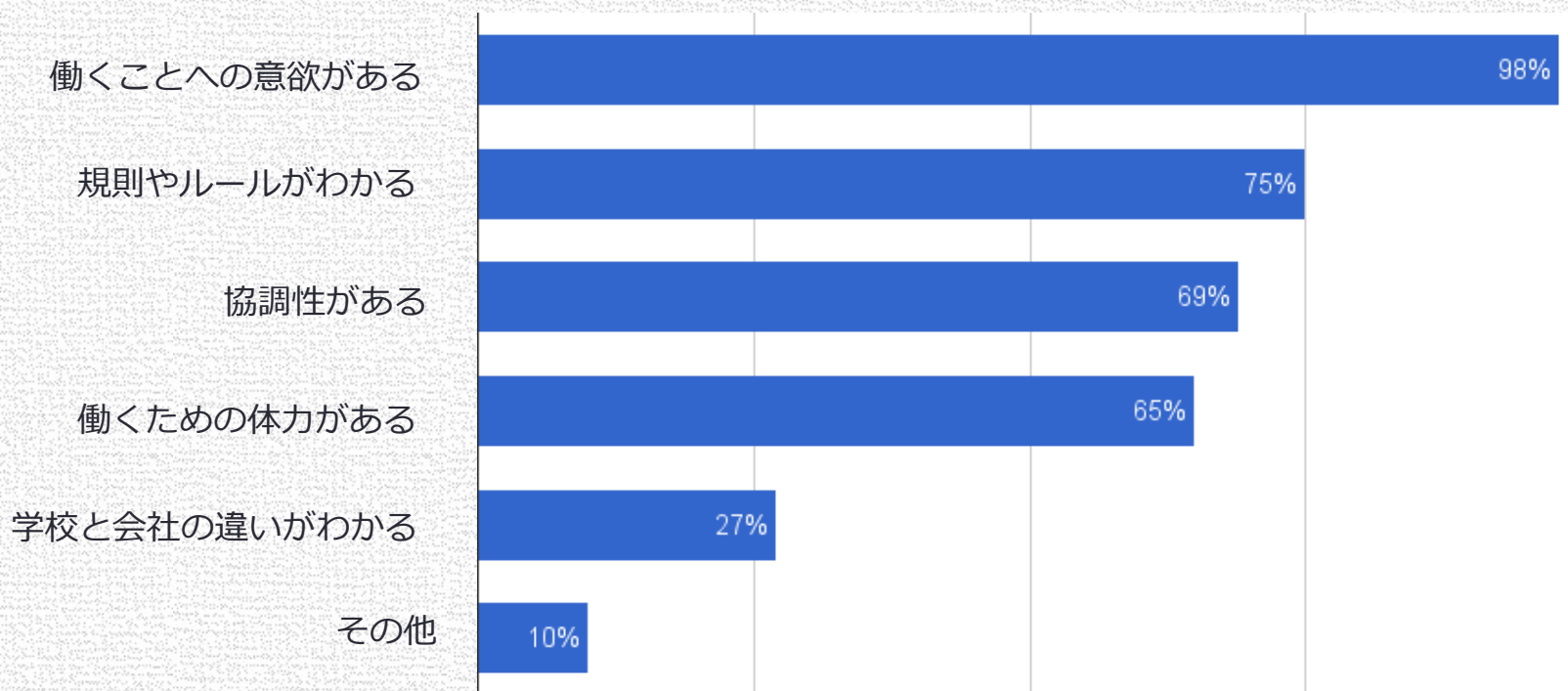
## 知的障害者の雇用形態と最低賃金

質問：知的障がい者をどのような形態で雇用されていますか？また雇用している人で最も低い賃金はいくらですか？



## 就労において企業が期待する力

質問：採用に当たり、本人にどのような力を期待しますか？



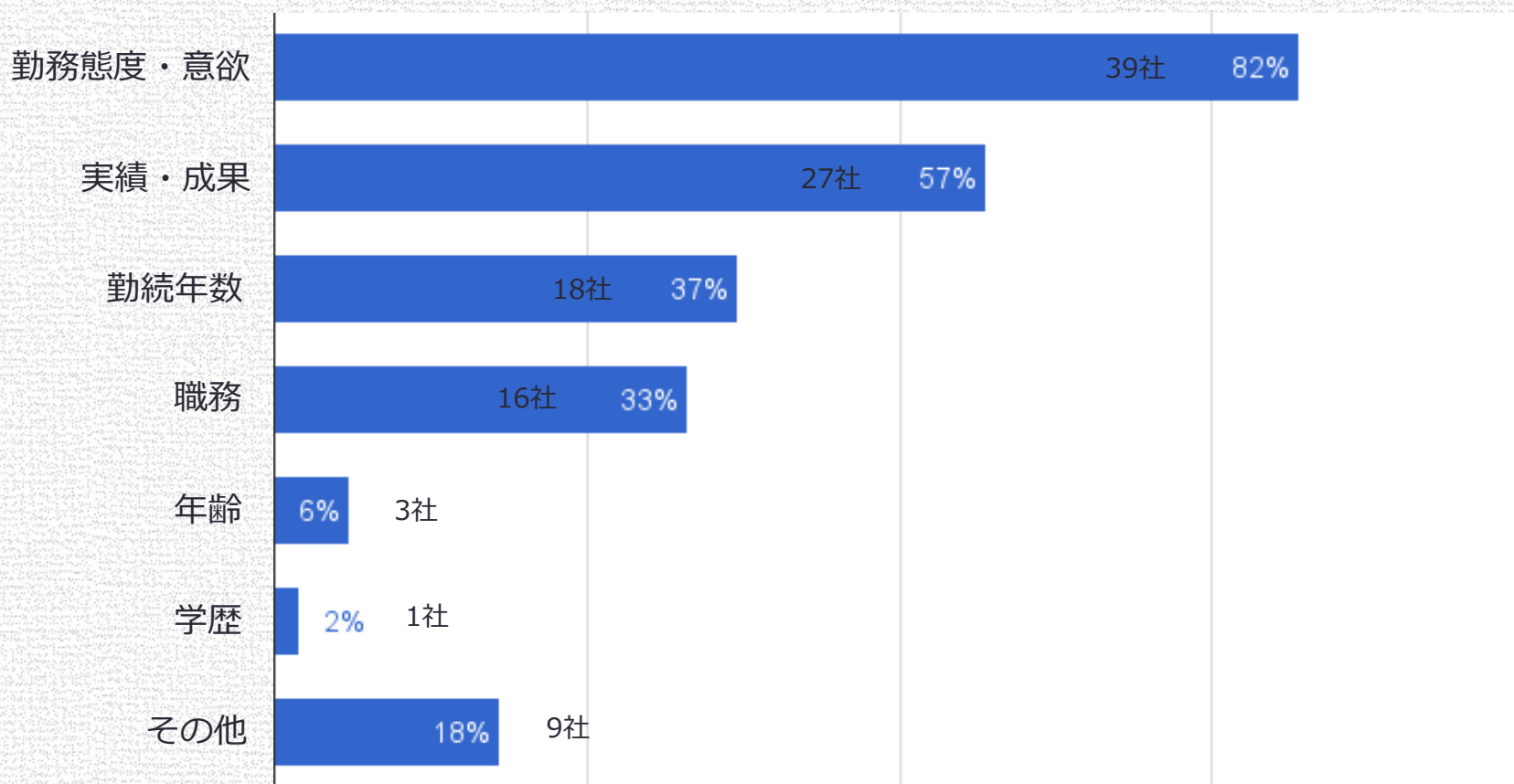
※「業務知識がある」「過去に就業経験がある」の項目は、ともに0%であった。

※ その他の回答は、「安全に配慮できる」「明るく元気に」「まじめで正直である」

## 賃金の決定に関して考慮される事項

質問H：知的障害者の賃金を決定する際に考慮している事項は次のうち どれですか？

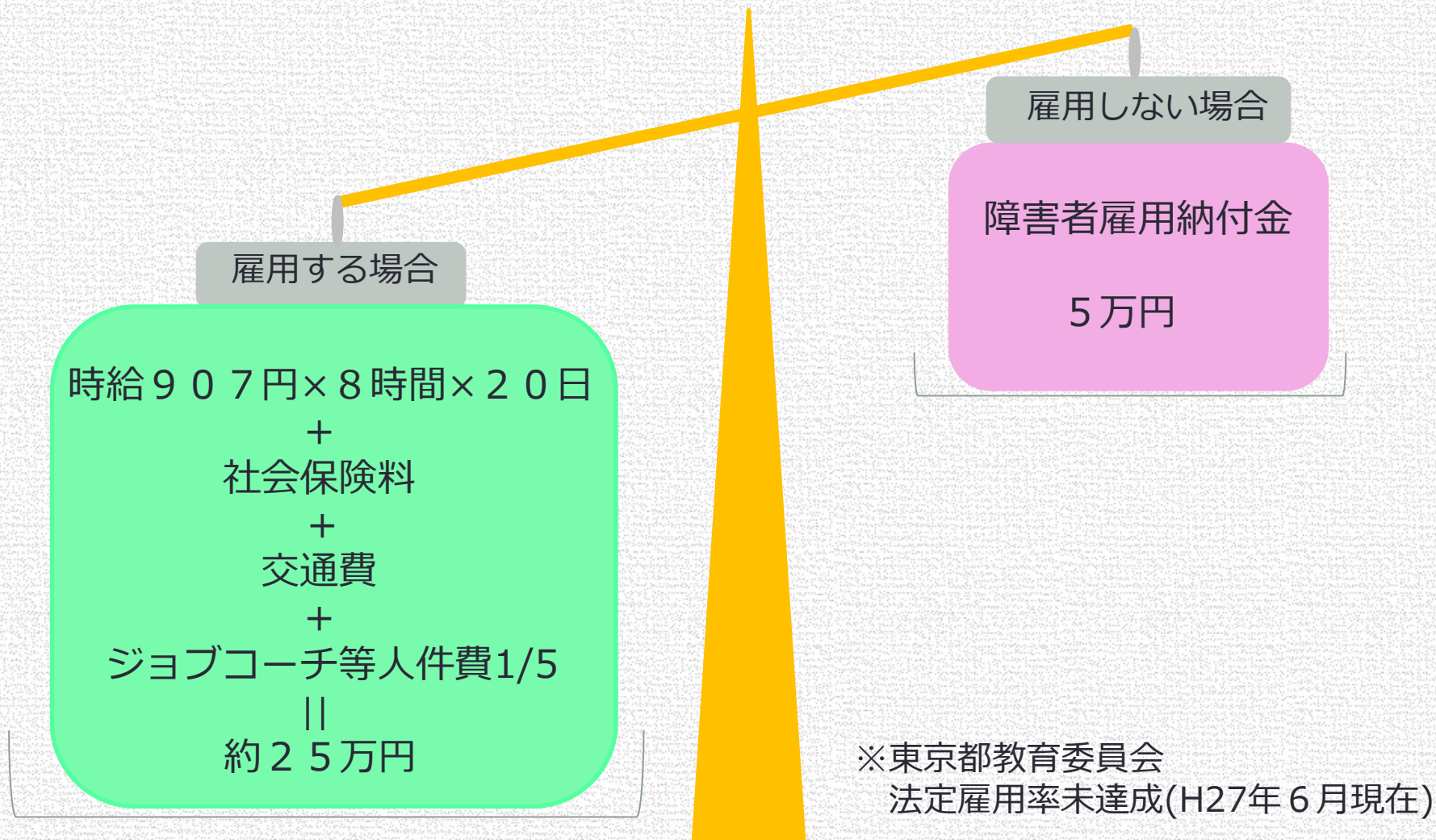
【特例子会社50社の回答・1社につき3項目まで選択】





# 障がい者を雇用する場合としない場合の企業のコスト比

障がい者一人当たり一か月にかかるコストについて比較



## 企業が教育機関へ期待する事 1

質問：就労に向けて小中学校・高校(高等部)等の教育機関に期待される事をお聞かせ下さい。

- \* 個々の生徒の障害特性を考慮し、**性急な企業就労にとらわれることなく**、就労に必要な基礎的部分（体力、生活、健康管理）の習得を期待する。
- \* **主体的に考える事ができる教育**を行って欲しい。
- \* 障害者各人が、**自分の障がいの特性をよく理解し**、各人が**得意としている事を伸ばすような教育**をお願いしたい。
- \* 教育機関には、**性、恋愛、金銭管理**等も積極的に教えて欲しい。
- \* 社会生活を送れるように、**ルールや働く事の意義・意味・目標**を理解できるように指導をして欲しい。
- \* 企業にはそれぞれ独自のスキルがあり、それは企業が指導するものであるから、就業するにあたって**作業スキルはさほど重要ではない**。ただ、その**スキルを学び取るための態度や姿勢**を身につけておくと、就職してからスムーズに定着できる。
- \* **企業に入社してから知的障害者に向けた体系的な教育があるわけではないので**、学校教育の中での教育は重要であると考えます。企業の立場からは社会常識として、**挨拶・執務態度・時間厳守・身だしなみ**については、学校教育の中でかなりしっかりと教えて欲しい。
- \* 「働かなくてはならない」は仕事をしてからで十分。まずは**「働きたい」と思えるようになるよう布石を**。ジョブマッチングの基本はスキル面や障害特性だけで決めるものではなく、**本人の意向**がまず一番に来るべきかと思う。

## 企業が教育機関へ期待する事 2

質問：就労に向けて小中学校・高校(高等部)等の教育機関に期待される事をお聞かせ下さい。

- \* 就労率の問題があるとは思いますが、**本人が望まない職業や適性が合わない業務への就労は、結果的に早期離職につながる。**
- \* **生徒の適性にあつた進路の選択と適切な情報の共有**をお願いしたい。
- \* 期待する事、というより要望になるが、**家庭の状況や家族の情報などについて、学校で把握していることを包み隠さず教えて欲しい。**
- \* 個人情報保護の観点では承知しているが、**学校や家庭での教育歴や生活歴のスムーズな情報の連携をして欲しい。**
- \* 卒業後3年間は学校がフォローしてくれるはずだが、都道府県、又は学校によって対応が分かれている。
- \* **就労後もちゃんとフォローを継続して欲しい。**
- \* 生徒さんにインターンシップ研修を受けてもらう前に、教員自身も「働く」ことを企業で実習した方が良いのではと感じることが多い。
- \* 行政サイドを含めて教育機関に対して「**職業科**」の充実・拡充などを目指すよりは、**挨拶や体調管理等“社会に出ていくための基礎的なこと”を徹底して教え込むことを、家庭への啓蒙を含めて学校での教育に強く期待したい。**そこから始めるのでは、**企業としての負担は余りにも重すぎる。**
- \* 雇用率2.0%を受けて、市場の求人レベルは下降している。5年前では「**就労準備**」レベルの方が**就労できる時代**となっている。良いことではあるが、**支援機関も企業もそれを受け入れ、育て上げていく力はまだない。**



# 知的障がいを持つ子どもの保護者に対するアンケート調査

## 調査対象

小・中・高等学校及び特別支援学校のいずれかの教育機関に知的障がいを持つ子どもが在籍している保護者のうち、ホームページ上または郵送でアンケートに協力してくださった方 71名

## 調査期日

平成28年2月1日～3月5日

## 調査方法

- ①アンケートフォームのURLを送付後、パソコン等からアクセスしインターネット上で回答してもらう。
- ②アンケートを送付後、回答を郵送にて返信してもらう。

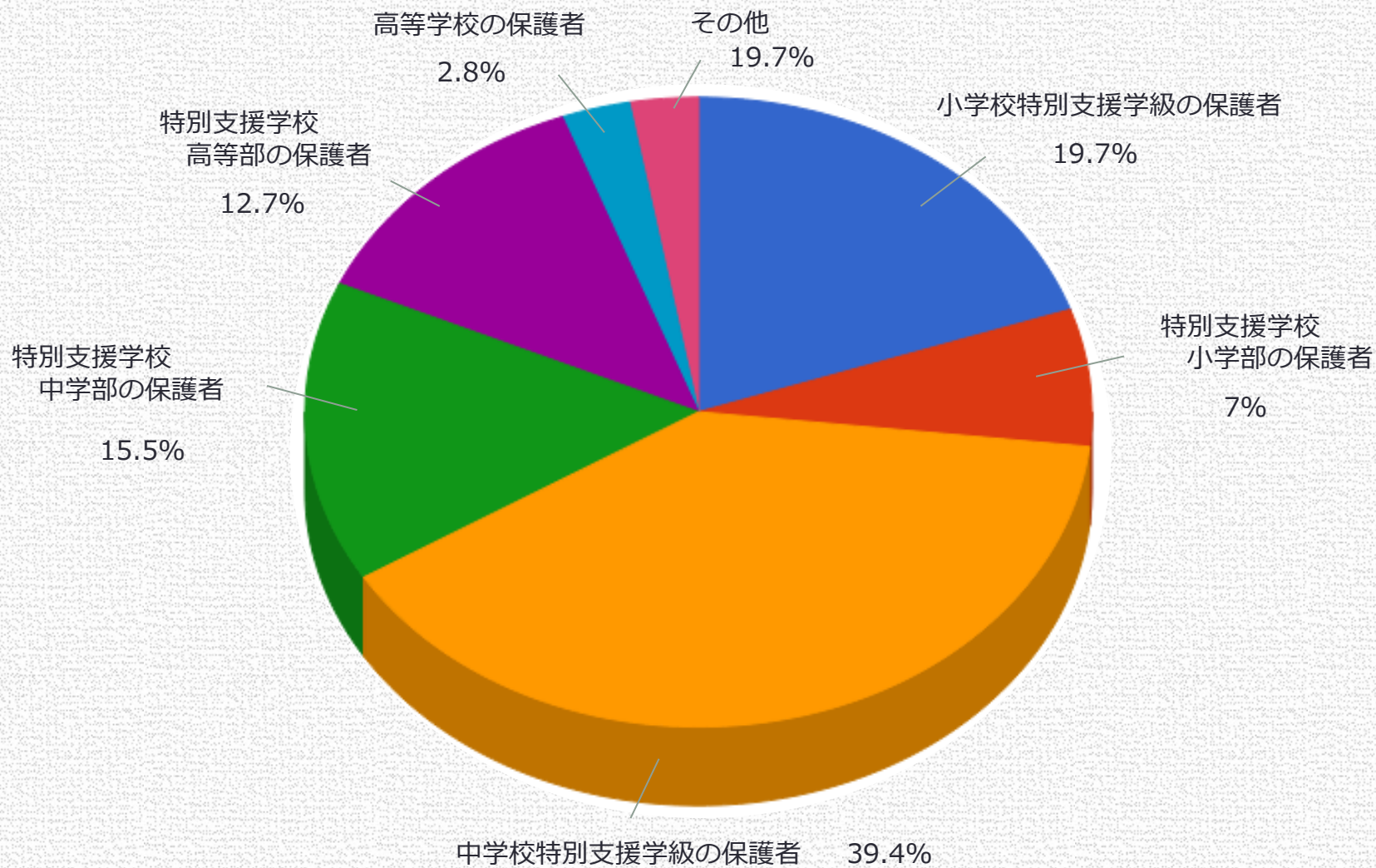
## 回答状況

回答数 71名 有効回答数 71名

※回答率については計上しない

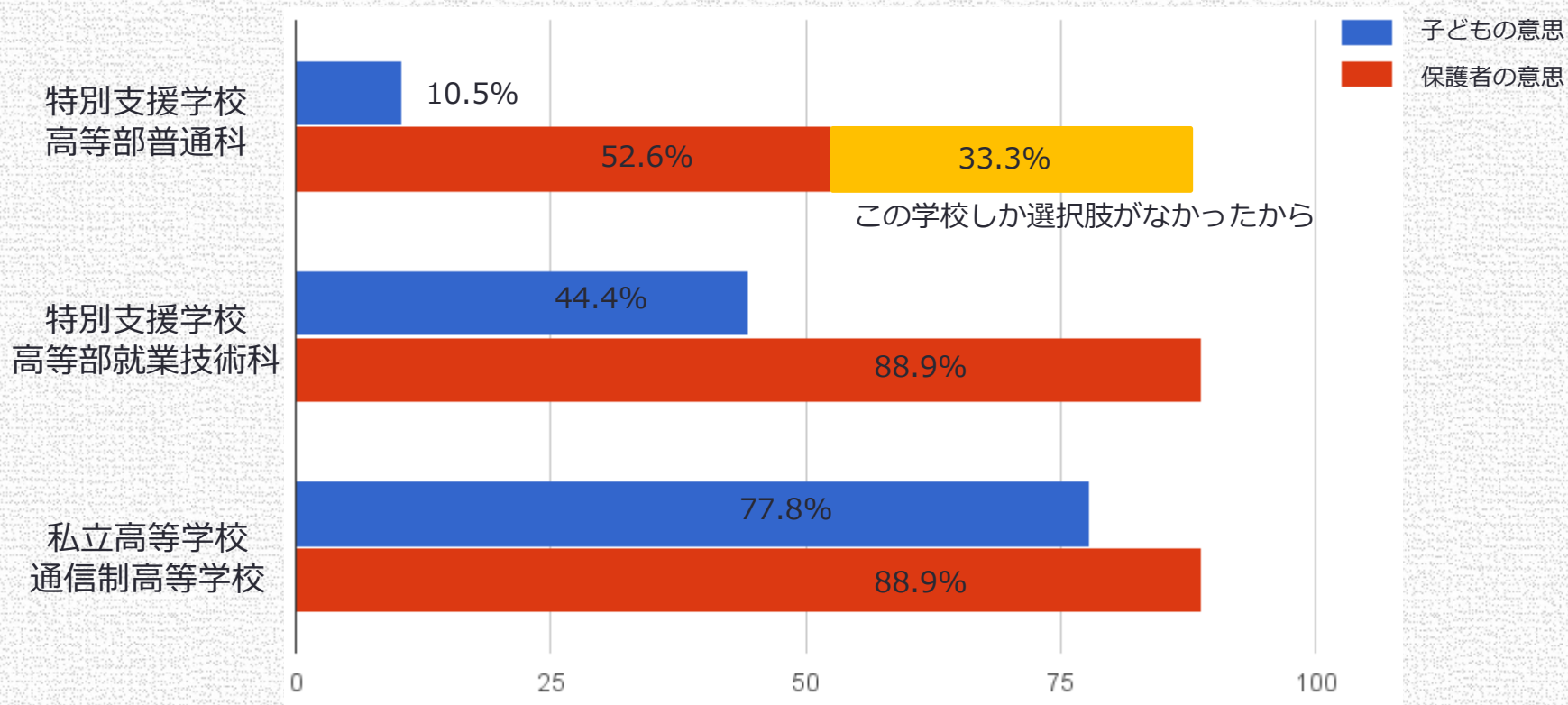


## アンケート回答者の状況



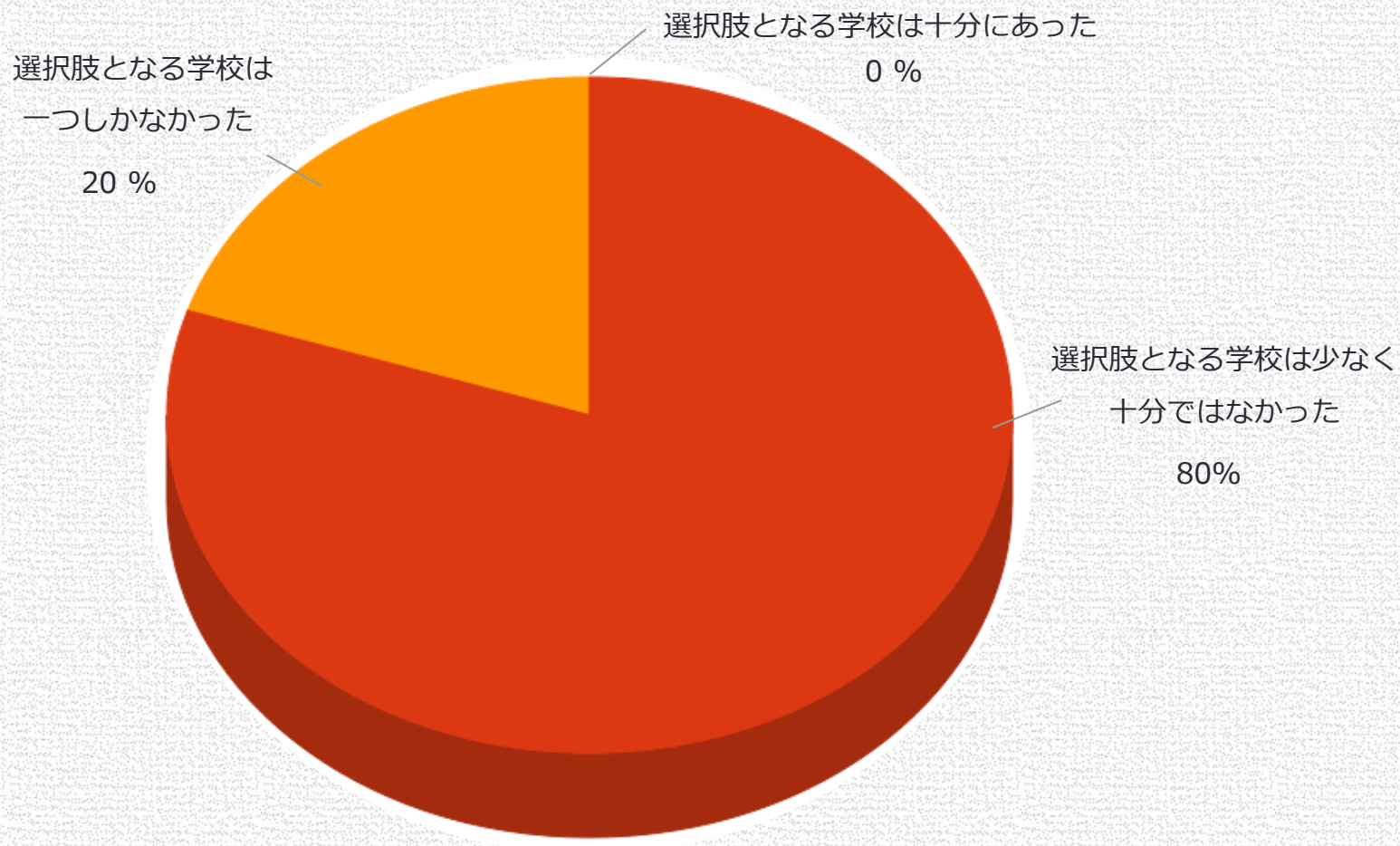
## 子どもと保護者の意思による進路決定の割合

質問：どのような理由で進学先を決定しましたか？(回答状況を部分的に抜粋)



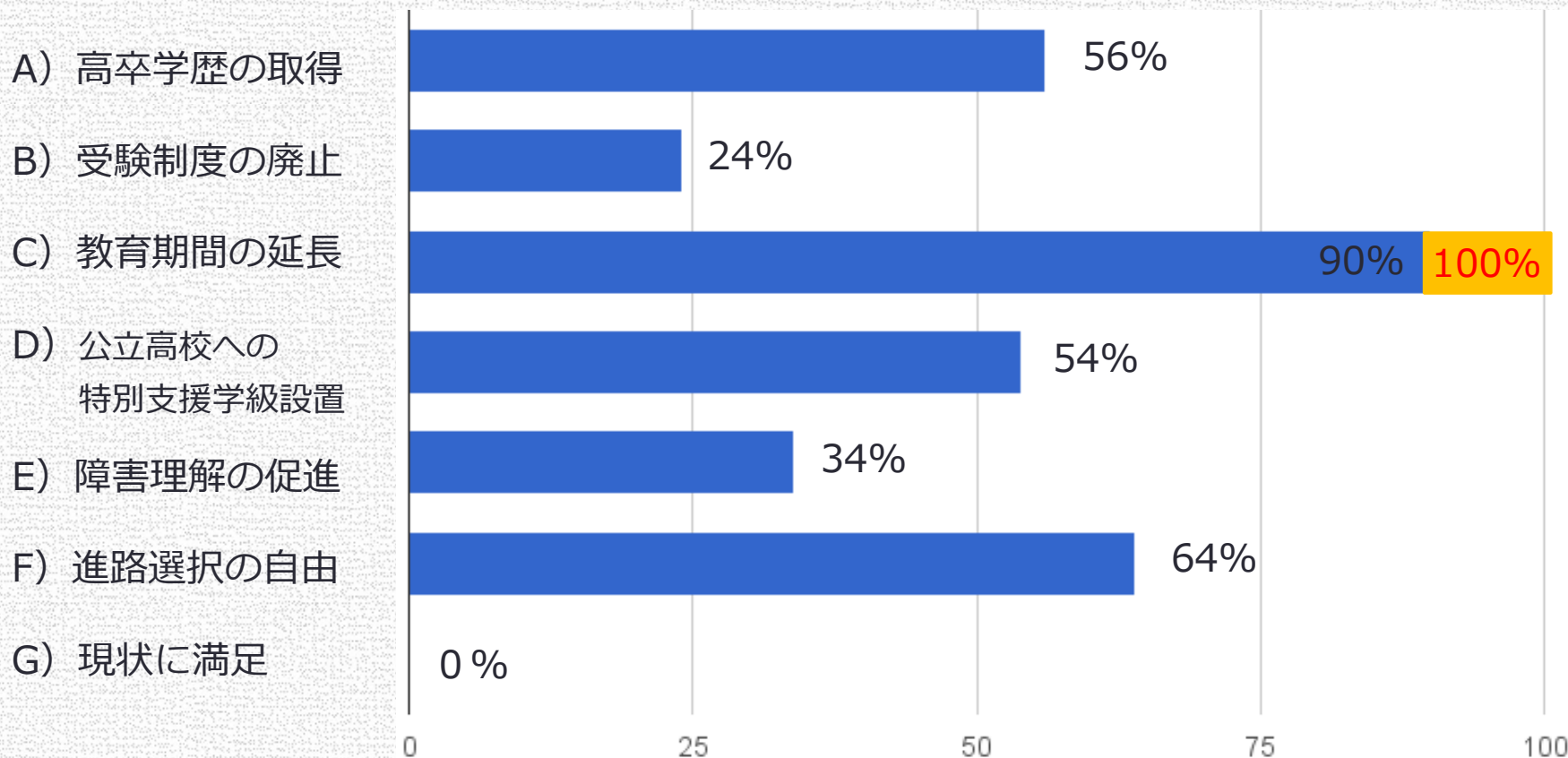
## 進路決定における選択肢の状況

質問：進路決定の際、選択肢となる学校は十分にありましたか？



## 現在の特別支援学校高等部に対する保護者の要望

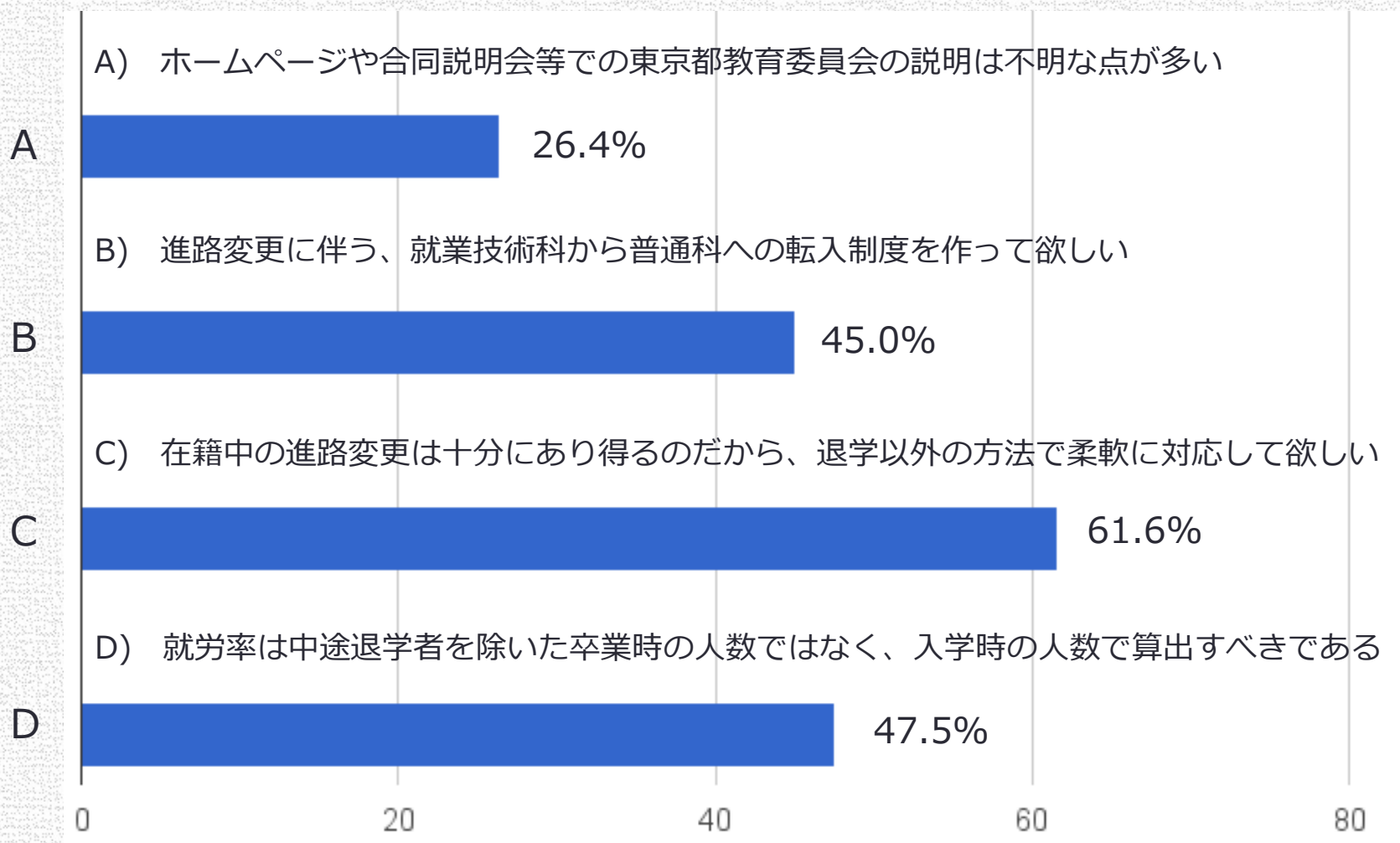
質問：現在の東京都特別支援学校高等部の在り方について、次のように思われている事はありますか？





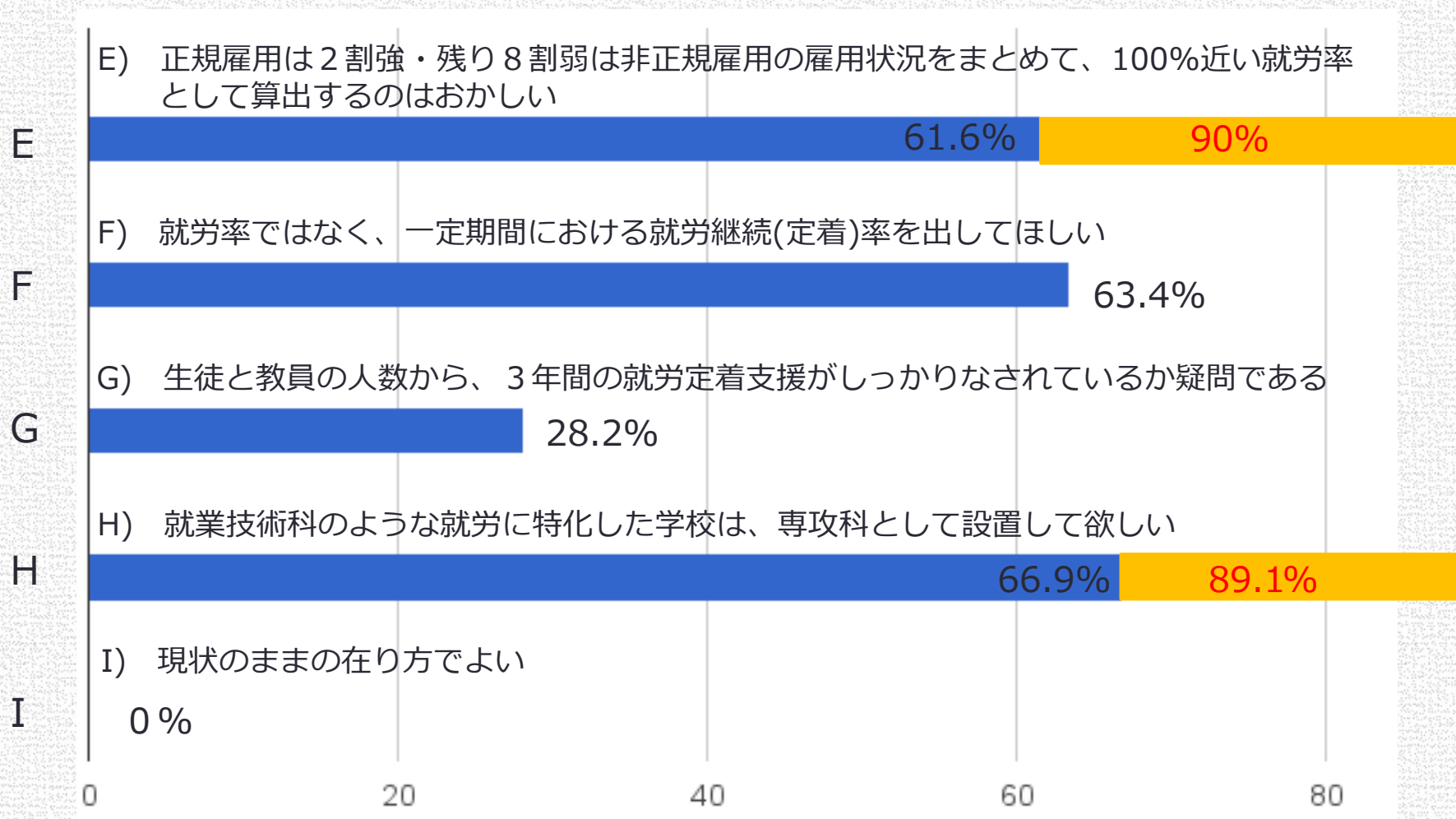
## 現在の特別支援学校高等部就業技術科に対する保護者の意見・要望 1

質問：現在の東京都特別支援学校高等部の在り方について、次のように思われている事はありますか？



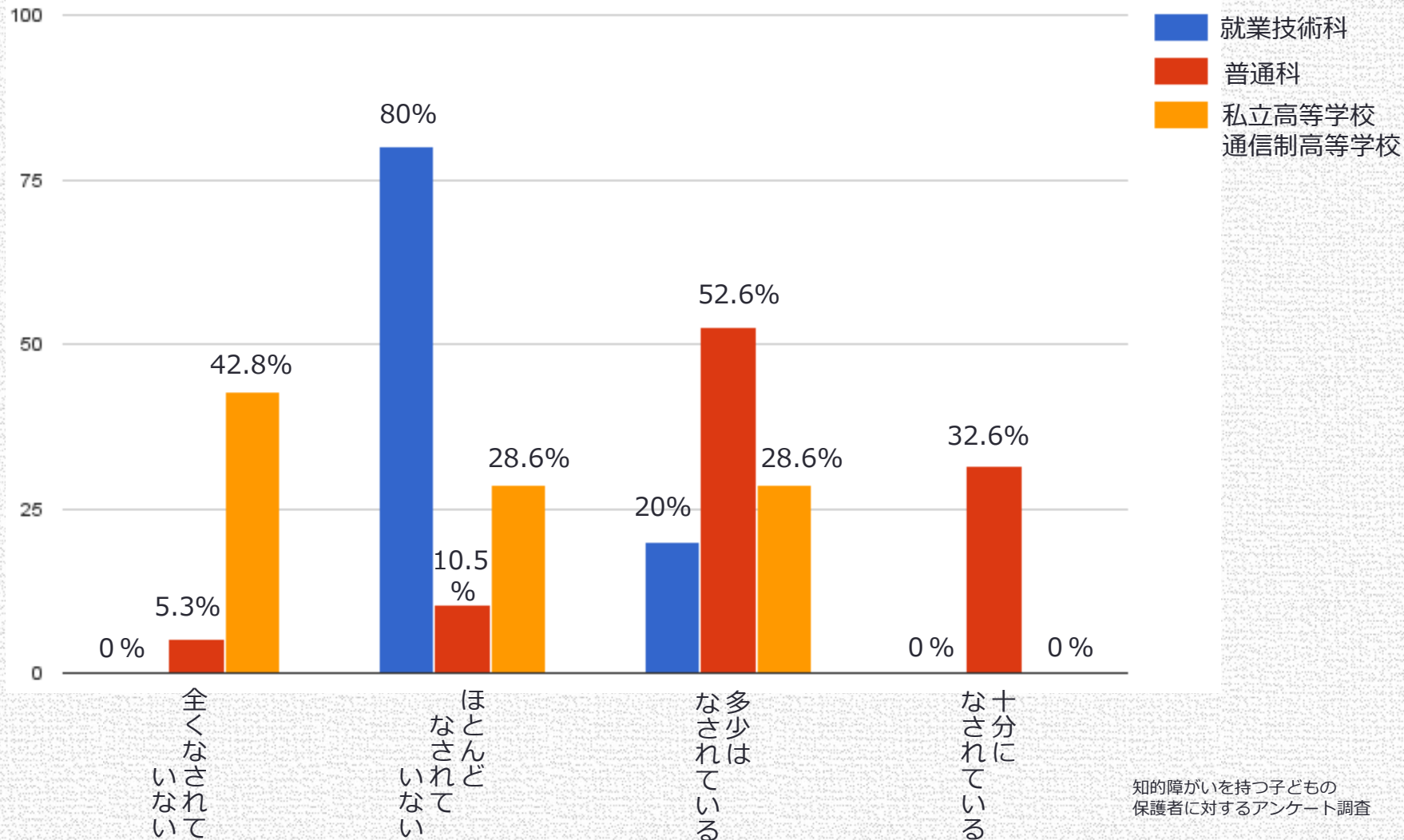
## 現在の特別支援学校高等部就業技術科に対する保護者の意見・要望 2

質問：現在の東京都特別支援学校高等部の在り方について、次のように思われている事がありますか？



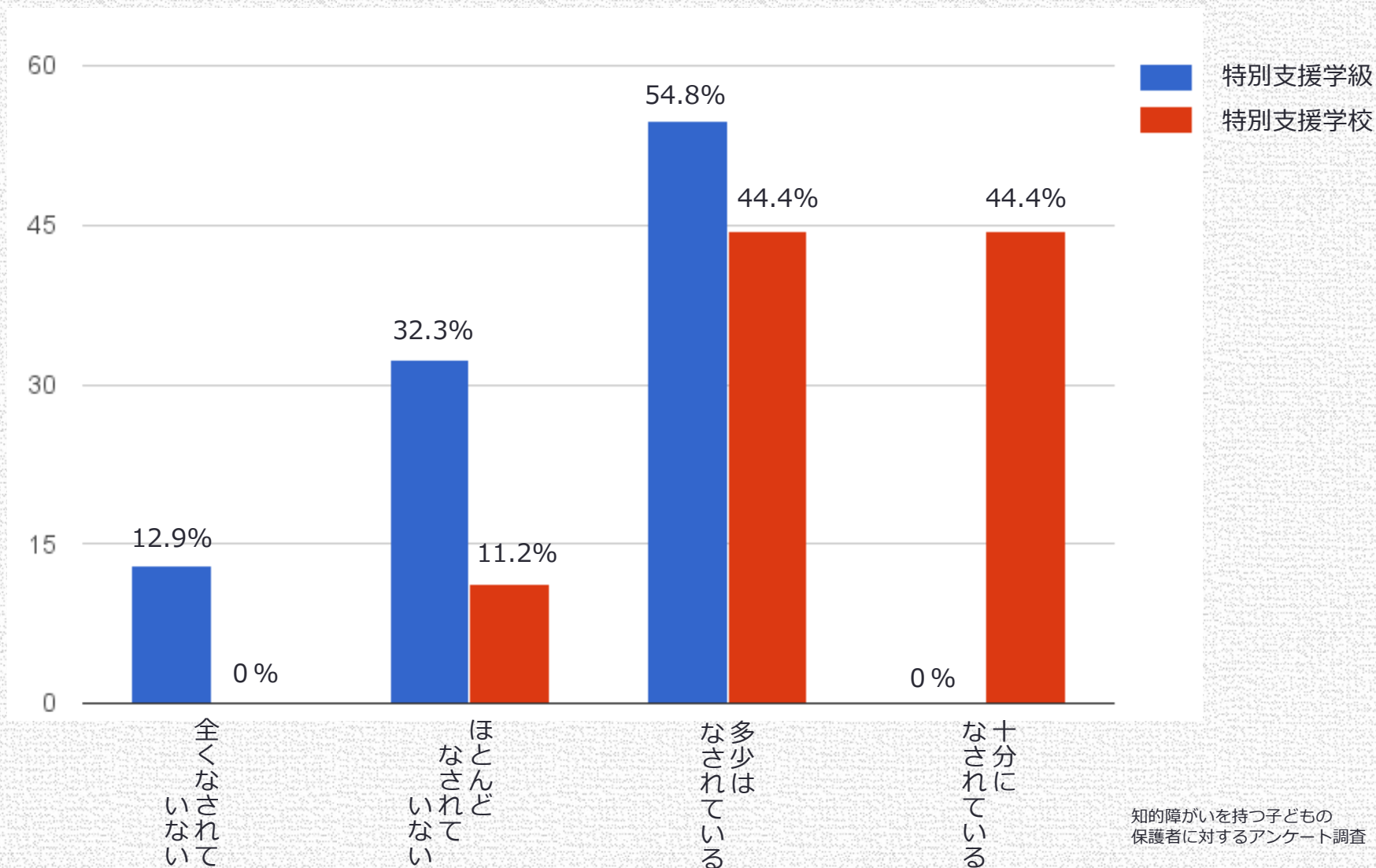
## 各教育機関の連携について（希望進路別）

質問：在籍中の教育機関では、次の希望進路につながるような教育内容や環境等への配慮がなされていますか？



## 各教育機関の連携について（在籍学校別）

質問：在籍中の教育機関では、次の希望進路につながるような教育内容や環境等への配慮がなされていますか？





## 教育機関間の連携がなされていないと考える理由

質問：次の希望進路につながるような教育内容や環境等への配慮がなされていないと考える理由は何ですか？

- \* 学校からの進学先についての情報がほとんどない。
- \* 担任から就業技術科を受験をしないのがもったいないと話されたが、その先の話はできそうもなかった。
- \* 授業内容など前年度の繰り返しなので学習面ではあまり成長が見られない。また、先生方が卒業後の進路情報や高校での学習内容などを全く把握していないので、少しでも卒業後に繋がる授業をしてもらいたい。
- \* 教員の生徒へ態度や授業内容が非常に乏しい。
- \* 学校は特別支援学校以外の学校を選択肢と考えていないようで、学習面等、進学先により柔軟な対応してもらえない。学校外の自己責任で受験の準備をしなくてはならない。
- \* 一応年間計画はあるが、実際の指導において、自立に向けて必要なことを、段階的に身につけられるような教育カリキュラムがあるとは全く感じられない。個々の教員の思いつきで指導内容が決められていると感じてしまう程、教員間や学年間に連続性がない
- \* 小さな事でも目標をもたせ、達成感を味あわせ、やる気をもたせることが少ない気がする。
- \* 希望する進学先は入試があり、小学6年生程度の学力が必要だが、家庭でのフォロー無しに、前述の学力が習得出来る教育プログラムになっているとは思えない。
- \* 進路先の情報がほとんど無く、親が探して学校に教えている状態。
- \* 作業の授業に力を入れており、常に就労を意識した指導である。もう少し普通の中中生らしい勉強をしてほしいと要望をだしたが叶えられなかった。
- \* 個々の障害に対しても知識や経験が少ない教員が多かった。熱意も感じられなかった。進路に関してもあまりよくわかっていなかったようで、高等部入学後の為に中学時代を具体的にどのように過ごすべきか指導もできていなかった。
- \* 小学校の時の勉強以下。生活面重視。子供自身が教師にバカにされていると感じるほどだった。

## 高等学校・高等部生の保護者の思い 1

質問：お子さんの進路について、保護者としてお考えになる事をお聞かせください。

- \* 高等部は中学部よりも更に就労を意識した内容になっており、仕方ないとは思いますが、やはり学生らしい学校生活を送らせてやりたいと思ってしまう。
- \* 子供の状態(心身ともに)は、絶えず変化がありその時その時での対応に追われながらの毎日の生活と、将来に対しての行動と、いつまで経っても気が抜けない。
- \* 高等部では生徒8人に先生が2人、それでも手の掛かる生徒がいれば先生の手も足りないのが現状である。
- \* 一人ひとり個性があるにも関わらず、高校・高等部卒業後は就労という大きな流れに疑問を感じる。
- \* 今の高校では仕事に直結するスキルは学んでいない。人との関わり、いろんな学校行事への参加、就労に関係のない教科の勉強の毎日を送っている。長い就労生活の前に、そんな学生時代があっても良いのではないかと思う。
- \* 特別支援学級だと、内申点がもらえないことを知らなかったため、都立受験を考えた時に愕然とした。一般の都立高校の受験が不利になるかもしれないと、不安に思った。このことを東京都教育委員会や高校に問い合わせても、明確な答えがもらえなかった。特別支援学級を選んだことで、その先の進路が狭められるのはおかしいと思う。



## 高等学校・高等部生の保護者の思い 2

質問：お子さんの進路について、保護者としてお考えになる事をお聞かせください。

- \* 先生自身に問題ありの割合が高く、高等部からの就労を求めるわりには担任が毎年のように変わり、先生方が、子供を見極められていない。その為、就労の定着率が良くない。
- \* 高校2年になると体験自習も有るが、どのように決めて実習を受けていけばいいのか、わからない。また、高校3年生になると進路を決めなければ行けない事は、とても早すぎて大変だと思う。
- \* 当時は就労することを第一に考えていたが、現在は就労する事より就労を続ける事の大変さを痛感している。就労時には、本人の強みだけではなく、弱い面やそれが出てしまった時に、どのようなサポートが必要かということも全て納得したうえで採用してもらえることが大切だと感じている。就労率を上げる事だけに執着すると、結局上手くいかずに傷つくのは子ども自身になってしまう。
- \* 正直、高卒で就労させたいとは考えていなかったが、経済的に余裕はないし、卒業後に就労する道しかないと思った。就労を考えると、この学校しかないと思い、就業技術科を受験し進学した。大多数の高校生がそうであるように、お金はないが時間はたっぷりある高校生活。友人と遊んだり趣味に集中する、将来の事に思い悩む事なく無責任なダラダラした高校生活を送らせてあげたかった。
- \* 今、一番に強く感じている事は、高等部を卒業した後の就労の事だが、思っていたより選択の幅が狭く、子どもの現状ともあわせて、厳しさを感じている。

## 小中学校・小中学部生の保護者の思い 1

質問：お子さんの進路について、保護者としてお考えになる事をお聞かせください。

- \* 我が子は通常高校に入学したいと言っており、今は受け入れてもらえそうな学校を探し始めている。
- \* 中学で、自分の進路を決めるのは、とても難しい。高校へいきながら、決められたらと思う。今、仕事をさせる事が、親の私自身、想像できず、戸惑っている。
- \* 現段階の現状では、本当に選択肢がなくどうする？と思うことばかり。一つ二つを提案できるのが精々で、悲しい現実だと感じている。
- \* 中学から支援級に入りましたが、親子で納得した上での事なので、良い選択だったと思っている。しかし、高校に関しては、保護者の考えと子供の考えが食い違っている時に、折り合いをつけるにはあまりにも学校の選択肢が少ない。学校の数が多いが、しっくりくる所がない。
- \* 18歳になったら 就労するしか道はないのか。親としては、もう少しゆっくりと学ばせてあげたいと思う。学校にしても、障害のある児童数が急増している中、なぜ進める学校数が少ないのか。
- \* まだ、どのような進路を歩むのか全く見当がつかないが、障害があっても社会人として働いてほしいと思う。
- \* 中学校へ入学してみて、この1年の短かさに驚いている。その先をゆっくりと考える間もなく、3年間で過ぎてしまいそう。特別支援学級に限った事ではないかもしれないが、中学校も4年か5年あれば中学校生活を楽しみながら、その先を考えるゆとりももう少しできるのではと感じている。



## 小中学校・小中学部生の保護者の思い 2

質問：お子さんの進路について、保護者としてお考えになる事をお聞かせください。

- \* 中学まで支援学級はあるが高等部にはない。今まで支援学級でそれなりの事を学んできているのに、高等部に支援学級がないが為に、ほとんどの子が支援学校に来る。もともと支援学校に行っていた子は、もちろん支援学校に行く。皆が支援学校に集まってしまい、しかも学校を選べるわけでもなく、仕方なく1つの支援学校に集まる。支援学校に色々な能力の子が集まり過ぎだと思う。支援学校でも能力に応じた学校分けとして、もっと支援学校を増やしてもらいたい。
- \* 障害を持つ子の進路は決まった道が多くまた情報が少ないので、子どもの将来、いく末が不安である。障害を持つ子が増え、支援級も小中学校にどんどん出来ているが、障害の種類も様々なので高校にも支援学級があっても良いのではないか。
- \* 我が子の場合は、小学校通常級から中学入学時での特別支援学級への進学だったため、先の進路の情報はほとんど無く、中学卒業後の進路の情報や説明ももっと欲しかった。
- \* 特別支援とは何なのか。支援を受ける代わりに、人生における選択の自由が奪われている気がしてならない。
- \* 私が無知なため、わからないことばかりで不安がいっぱいだが、本人が行きたいと言っている学校へ行けるように、サポートしていきたいと思っている。現実問題、どうサポートをすればよいのかが悩みの種であるが、自立し、社会と関わりをもって生きていってほしいと思っている。
- \* 志村学園就労技術科に入学することになったが、人の目を見ることが苦手で果たしてついていけるか心配。

## 小中学校・小中学部生の保護者の思い 3

質問：お子さんの進路について、保護者としてお考えになる事をお聞かせください。

- \* 障害を持つと言っても、その障害はそれぞれの特性がある。しかし、今の状況ではあまりに選択肢が少なく、皆が引かれた進路先を選ばざるをえない。障害の程度や種類を加味して、もっと多様な進路があれば、子供たちがより良い環境で学べるのではないかと思う。
- \* 障害があっても、得意とする分野、能力が発揮できる進路先に進ませてあげたい。また、息子自身が納得して、行きたいと思う進路先を選びたいと考えている。
- \* 高校はどこも就労練習の授業ばかりなので、障害のない子だって高校までは進路が定まってない場合が多いのに、精神面も知能も低い子達が中学卒業後から就労、職種等を決めなくてはいけない状況なのはつらい。
- \* 高校卒業後は、就職。それ以外の選択肢が増え、自分がやりたいことを見付ける機会、時間が増えると良いと思う。
- \* 将来の自立につながる学習ができることと、青春時代を楽しめる学校生活ができると良いと思う。選択肢がないという事実も受け入れて、可能な限り本人が人生を楽しめるようにしたい。
- \* 環境変化に弱い子達なので中高一貫制学校があると良いと思う。今の小学校で、現在は落ち着いているけれど、小学校を卒業後、中高で3年ごとに環境が変わり大変だろうなと思っている。



## 小中学校・小中学部生の保護者の思い 4

質問：お子さんの進路について、保護者としてお考えになる事をお聞かせください。

- \* 親亡き後も安心して暮らせるような社会になり、我が子も学生時代にその力をつけてほしいと思う。
- \* 高等部卒業後の進路として、すぐに就労、施設入所などではなく、2年なり4年なり、勉強や就労スキルを学ぶ機会を作って欲しい。
- \* 高等部卒業後すぐに就労ではなく、学びの場の選択肢が増えるといいと思っています。
- \* 少ない選択肢の中で進路を決めるので色々悩むこともあった。もう少し普通校のように選択できる学校が増えればいいと思う。また、特別支援学級、学校の小、中、高等部ではお互い情報を交換しあい、自立、就労に向けて繋がってくれたらいいと思う。
- \* 高校といいながら、高卒扱いにならないのは納得いかない。
- \* 就業技術科を卒業したら、学校のフォローが無くなってしまうので、不安。
- \* まだ小学3年生なので、高等部の事はこれからじっくり考えたいと思う。選択肢が少しでも増える事を願っている。
- \* 卒後の生活に重きを置いて、準備をしていくつもりである。
- \* うちの子供は、重度自閉です。重度の子供でも、通える作業所や企業があるのか？受け入れが有るのか不安。
- \* 選択肢が非常に少なく、将来的に選択肢が増えていく事を願う。

ご清聴 ありがとうございます

---

ままのがっこ代表 大森 梓

080-3529-6343

t.a.n.s.k.1118@docomo.ne.jp